
詳細設計照査要領

平成10年5月

東京都建設局

はじめに

社会資本の整備を推進していく上で、設計成果の良否は、工事の施工性、完成品の出来栄え、その後の維持管理等に大きく影響を与えることとなります。

したがって、設計委託の成果品は、一層、品質向上と正確性を確保していく必要があります。

しかしながら、近年、業務量の増大、業務内容の複雑化・多様化が進む一方で、担当技術者の負担増や技術力の低下が懸念されており、発注者と受託者の共通認識のもとに、主要事項の確認や効率的な照査等を行うための仕組みが必要となってきました。

このため、一層の成果品の品質向上、照査の効率化、設計担当者の技術力向上等を目指し、合理的な業務の推進、手戻り防止等の観点から、設計業務の照査の過程を確認する「詳細設計照査要領」を制定するに至りました。

なお、当局の設計委託の要領書には「設計委託指導要領」がありましたが拘束力を持った基準ではなく、設計業務における設計者の考えの整理の手助けと、受託者への円滑な意思伝達を目的としたものでした。

本「詳細設計照査要領」は、これらのことを踏まえ平成8年度から技術管理委員会調査設計分科会において、建設省等で既に実施している「詳細設計照査要領」をベースに検討してきたもので、当局の設計業務に合わせ内容を充実し、拘束力のある要領書として運用を図っていくものです。

業務によっては、照査報告の回数が増減することなどが考えられますが、照査目的を十分理解され、発注者・受託者相互の確認、受託者の業務遂行に役立てていただきたいと考えています。

また、本要領の制定により、従来の「設計委託指導要領」は廃止することとしますが、本要領の更なる内容充実を図っていくことを考えていますので、忌憚のないご意見、ご要望などをお寄せいただきたいと思います。

最後に、多忙な日常業務の中、本要領の作成にあたり、尽力いただいた委員各位に対し厚く感謝の意を表します。

平成10年5月

建設局企画担当部長 中西 徹

目 次

詳細設計照査要領の概要	1	河川詳細設計照査要領	9 8
詳細設計照査フローチャート	5	基本条件の照査項目一覧表	9 9
道路詳細設計照査要領	6	細部条件の照査項目一覧表	1 0 4
基本条件の照査項目一覧表	7	成果品の照査項目一覧表	1 1 0
細部条件の照査項目一覧表	1 5	樋門・樋管詳細設計照査要領	1 2 3
成果品の照査項目一覧表	2 1	基本条件の照査項目一覧表	1 2 4
平面交差点詳細設計照査要領	3 7	細部条件の照査項目一覧表	1 2 9
基本条件の照査項目一覧表	3 8	成果品の照査項目一覧表	1 3 5
細部条件の照査項目一覧表	4 3	公園詳細設計照査要領	1 4 7
成果品の照査項目一覧表	4 7	基本条件の照査項目一覧表	1 4 8
電線共同溝詳細設計照査要領	5 4	細部条件の照査項目一覧表	1 5 2
基本条件の照査項目一覧表	5 5	成果品の照査項目一覧表	1 5 7
細部条件の照査項目一覧表	6 0	仮設構造物詳細設計照査要領	1 7 1
成果品の照査項目一覧表	6 5	基本条件の照査項目一覧表	1 7 2
橋梁詳細設計照査要領	7 1	成果品の照査項目一覧表	1 7 6
基本条件の照査項目一覧表	7 2	[参考]	
細部条件の照査項目一覧表	7 8	山岳トンネル設計（建設省要領抜粋）	1 8 4
成果品の照査項目一覧表	8 4	基本条件の照査項目一覧表	1 8 6
		細部条件の照査項目一覧表	1 9 1
		成果品の照査項目一覧表	1 9 5

詳細設計照査要領の概要

1. 本要領の目的

1) 成果品の品質向上

設計成果の良否は、工事の施工性、完成品の出来栄え、その後の維持管理等に重大な影響を与えることになる。設計委託業務の成果は、最も基礎的かつ重要な要素であることから、成果品の品質向上を図り、正確性を確保するために、本照査要領を活用することにより、設計業務内容の主要事項を系統的に把握できるとともに迅速な照査が可能となる。

2) 担当技術者の技術力向上

官民共に業務量の増大、業務内容の複雑化・多様化が進む一方で、担当技術者の負担増や技術力の低下が懸念されており、本照査要領を活用することを通して、受託者の照査状況や発注者による業務進捗状況の把握が可能になるとともに、当該設計に係わる適用基準や主要事項の再確認等、技術者の技術力向上の機会となる。

3) 基本事項の統一による照査の効率化

建設省や他府県等の発注機関は本要領と同様な照査を受託者に義務づけており、基本的照査事項の統一により照査の効率化を図ることが可能となる。

2. 本要領の特徴

1) 設計の自由度の尊重

設計の自由度を尊重するため、設計マニュアル（基準）的なものでなく、設計の基本に関する事項を体系的に記載し、各事項に対応する照査の完了を一目で把握できるものとしている。したがって、照査手段、諸基準等との関連をはじめとする具体の照査内容については受託者の判断によるものとなる。

2) 段階的照査の実施による業務推進の円滑化

業務の主要な段階毎（基本条件の照査、細部条件の照査、成果品の照査）に、受託者が照査項目一覧表等により、発注者に対して照査過程等を報告することを手続きとして標準化しており、これにより、発注者からの与条件の取り違い等が発見しやすくなり、条件設定ミス等による業務の手戻り発生を防止することができる。

3) 設計調書の作成

受託者が照査の結果を一覧表形式に取りまとめた「設計調書」を作成することにより、発注者は設計成果の概要を容易に把握できるとともに、受託者においてもデータベース構築等を行うことによりマクロ的チェックも可能となる。

3. 本要領の適用

本要領は、詳細設計のみならず、原則として、予備、基本、比較等の各設計委託についても適用することとする。
なお、対象設計種別は、以下のとおりである。

- ①道路設計
- ②平面交差点設計
- ③橋梁設計
- ④電線共同溝設計
- ⑤河川設計
- ⑥樋門・樋管設計
- ⑦公園設計
- ⑧仮設構造物設計
- ⑨トンネル設計※

※ トンネル編については建設省要領を準用する

4. 内容の構成

本要領の構成は、対象とする全ての工種について以下に示す内容で構成されている。

- ①詳細設計照査フローチャート（発注者、受託者双方が利用）
- ②照査項目一覧表（受託者が作成し発注者に提出） 3段階（仮設構造物は2段階）の照査・報告を規定
- ③設計調書（ " " ）

1) 詳細設計照査フローチャート

設計委託業務の起案から完了までの流れを、照査の観点から整理したものであり、受託者が実施する照査の主要な区切りと発注者・受託者双方の照査との関連を明示したものである。各工種とも基本的には同一の流れとなるため、基本フローを掲載した。

2) 照査項目一覧表

照査フローチャートに従って、設計の主要な区切り毎に受託者が実施すべき基本的照査項目を一覧表に整理したものである。作成は主要な区切り（3段階）毎に行うものとし、作成の手順は以下のとおりとする。

- ①業務内容から判断して該当対象項目を抽出し、「該当対象欄」に○印を付す。
- ②照査を完了した項目について「照査欄」に○印及び日付を記入する。
- ③照査技術者及び主任技術者の確認を受ける。（確認印）
- ④発注者に提出し、照査状況の報告を行う。

また、上記④の提出に際しては、必要に応じて、提示資料欄に記載された資料、各種検討書等を別添資料として添付するものとする。

なお、一覧表は2部提出とし、該当対象項目の全ての確認が完了した後、発注者から1部が返却される。

3) 設計調書

業務の成果のうち主要な設計諸元、使用材料、応力計算等について取りまとめ、受託者が発注者に提出する。必要に応じて、各照査段階においても有効活用を図るものとする。

なお、橋梁、河川、樋門・樋管、仮設構造物の各設計においては、設計調書の一部に“記載例、基準値（例）等”を掲載しているが、設計調書の作成に当たっては、これらを参考に当該設計委託業務の調書を作成するものとする。

5. 用語の定義

1) 照査

受注者が設計業務の完了までに行う、発注条件、設計の考え方、構造細目等のチェック及び技術計算等の検算であり、本照査要領に記載された照査項目は標準的と判断する設計の基本事項である。

2) 照査状況の把握

監督員が設計業務の完了までに行う、業務履行状況の把握の一部である。

なお、監督員が成果品の品質についての適否を判断するものではない。

6. その他記載等に当たっての留意事項

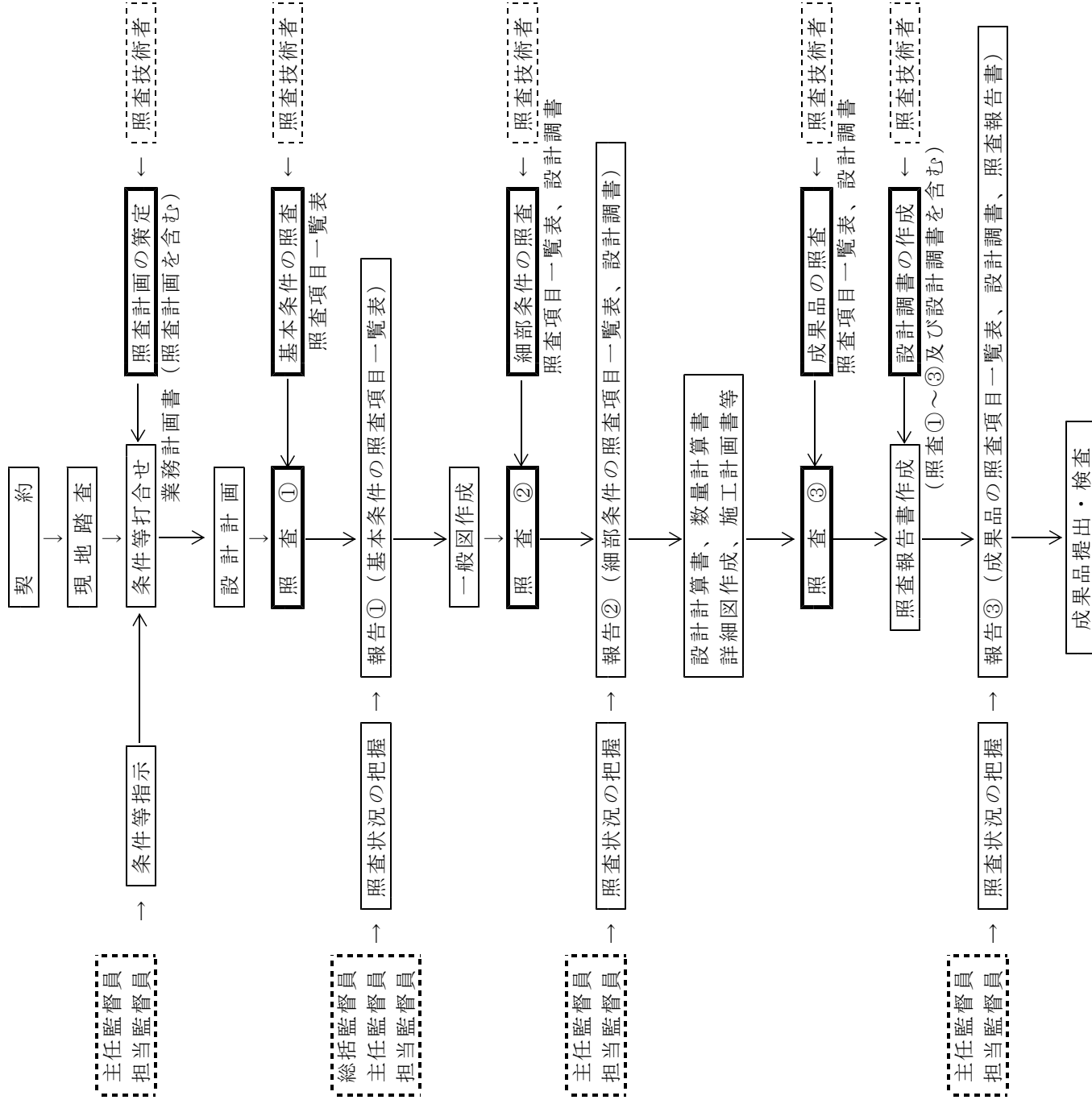
- 1) 各照査段階において、照査内容が未定であったり、一度で確認が済まない場合や条件決定が順不同となる場合は、確認が済んだ事項に○印と日付を記入し、未確認の事項が明確になるように徹底すること。
- 2) 照査項目の中に、複数の確認項目がある場合（例えば関係機関協議が複数ある場合）は、必ず備考欄又は別紙を用いて確認済み項目が解るようにすること。

- 3) 照査内容の項目が漠然としており、発注者の認識と異なるおそれがあると判断する場合は、備考欄等を用いて具体の確認項目を明示すること。
- 4) 業務内容、規模、重要度等により、照査内容項目を追加する必要がある場合等は、各様式の最後に添付した「追加項目記入表」を利用すること。
- 5) 予備設計や比較設計等に本要領を活用する場合は、必要な照査内容項目を抽出して照査すること。
- 6) 照査報告書に本要領に基づき作成した資料を添付すること。
- 7) 設計調書等 A 4 判サイズでは記入困難な場合は、A 3 判に拡大して記入すること。
- 8) 項目一覧表における「提示資料欄」には、適宜提示資料名及びその該当ページを記入すること。
- 9) 仮設構造物設計における基本条件の照査は、原則として、フローチャートの照査の②の段階で行うこと。

詳細設計 照査 概要

発注者

受注者



- 注記
- 1 照査②の段階から、設計調書の有効活用を図る。
 - 2 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。
 - 3 仮設構造物設計においては、基本条件の照査は照査②に該当する。

4 受託者が実施する照査関連事項

道 路 詳 細 設 計 照 査 要 領

平成 1 0 年 5 月

基本条件の照査項目一覧表

(照査 ①)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	設計の目的、主旨	1) 目的・主旨を理解したか。 2) 地域構想等に関する上位計画を把握したか。 3) 設計の主な項目、工程等について具体的内容を把握したか。				
2	貸与資料	1) 必要な貸与資料があるか。				
3	現地踏査	1) 地形、現地状況（旧河道、用排水路、井戸、現場周辺の土地利用等）を確認したか。 2) 隣接工区との関係を確認したか。 3) 現道状況及び交通状況を把握したか。（家屋連坦、迂回路、道路幅員、ゴミ集積所、交通量、車両規制、通学路、緊急車両の通行の可否等） 4) 周辺構造物との関係を把握したか。（学校、病院、鉄道等） 5) 環境状況（騒音、振動、防塵、日照等の配慮）を把握したか。 6) 埋設物、架空線等（下水管、人孔、ガス、水道、ケーブル等）の位置、深さ、形状等を把握したか。 7) ボーリング図は適正か。（近接工区と関連性等） 8) 地質状況を把握したか。（季別地下水位、地下水利用状況、被圧の有無） 9) 貸与資料と現地の相違はないか。 10) 法令、条件に関する調査の必要性があるか。 11) 施工時の留意事項を把握したか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
4	設計条件	1) 事業計画を確認したか。 2) 道路規格を確認したか。 3) 設計速度を確認したか。 4) 計画交通量を確認したか。 5) 横断面構成を確認したか。 6) 道路工事設計基準、道路構造令、建設局標準構造図集を確認したか。 7) 関連する設計と整合が取れているか。 8) 福祉のまちづくり条例と整合がとれているか。				
5	施工区分	1) 暫定施工時の施工区分を把握したか。 2) 現道拡幅時の施工区分を把握したか。				
6	幾何構造、線形条件	1) 平面及び縦断の設計値は適正か。 2) 幾何構造の使用値は適正か。 3) 橋、トンネル坑口等の取合いを配慮したか。 4) 幅員構成は適正か。 (標準幅員、積雪寒冷地との整合)				
7	地形条件	1) 用地上の座標値はあるか。 2) 用地境界を確認したか。 3) 用地の権利関係を確認したか。 4) 施工ヤード、スペースを確認したか。				
8	使用材料	1) 使用材料と規格（市場性、経済性を含む）、許容応力度は妥当か。 2) 新材料、再生材の適用の検討を行ったか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
9	土工及び法面工	1) 土質定数の設定、湧水状況等の把握は適正か。 2) 法面勾配等は適正か。 3) 地すべり等の切土部安定検討は適正か。 4) 切土材料は盛土材料に転用できるのか。 5) 特殊法面工の必要性はあるか。				
10	軟弱地盤	1) 軟弱地盤対策は適正か。 2) 盛土の施工期間及び施工方法（迂回路計画等）は決まっているか。 3) 基本盛土施工厚と施工工程とのバランスがとれているか。（地盤強度増加と施工時及び完成後の盛土の安定性） 4) 残留沈下量と交通解放時期の基本方針は決定しているか。 5) 地質調査は目的にあった調査、解析をしているか。 6) 盛土材の土質調査はしてあるか。また、その土質定数は把握しているか。 7) 計画線形（平面、縦断計画）の見直し、あるいは他の構造（高架等）が考えられないか。 8) 環境、用地に対する制限はないか。 9) 側方流動の影響を受ける構造物（擁壁、橋台等）はないか。				
11	函渠工	1) 標準設計の適用方法は適正か。 2) 同上を適用しないときは応力計算が必要か。 3) 自動設計の適用方法は適正か。 4) 二次製品の適用方法は適正か。 5) 施工条件を考慮しているか。 6) 縦断方向のすべりに対する対策は必要か。 7) 踏掛版の要・不要の確認。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	
12	擁壁工	<p>8) 防護柵の要・不要の確認。(内空断面の再確認)</p> <p>9) 土被りの条件は妥当か。土被りの変化が大きい箇所での断面変化は考慮してあるか。</p> <p>10) 土質定数の決定根拠は明確になっているか。</p> <p>11) 地盤条件(支持力、地下水位等)は整理してあるか。</p> <p>12) 設計計算の条件は妥当か。計算式の適用は確認されているか。(プログラム等)</p> <p>13) 適用する設計基準は確認されているか。</p> <p>14) 施工時の水路の切り廻し等は必要か。</p> <p>1) 所要高さ決定の根拠は適正か。</p> <p>2) 型式選定の根拠は適正か。</p> <p>3) 線形の変更、用地の利用等によって擁壁の規模縮小が可能であるかどうか工夫したか。</p> <p>4) 標準設計の適用方法は適正か。</p> <p>5) 同上を適用しないときは応力計算が必要か。</p> <p>6) 自動設計の適用方法は適正か。</p> <p>7) 二次製品の適用は適正か。</p> <p>8) 用地境界までの余裕幅を確認したか。</p> <p>9) 土質定数の決定根拠は明確になっているか。</p> <p>10) 基礎設計のための地盤条件は整理されているか。</p> <p>11) 現道交通、隣接家屋への影響を配慮したか。</p> <p>12) 全体的なすべりの安定性は確認したか。</p> <p>13) 設計計算の条件は妥当か。計算式の適用は確認されているか。(プログラム等)</p> <p>14) 適用する設計基準は確認されているか。</p>			

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料	照査	
13	排水工	1) 流出量の算定は妥当か。 （集水域、流出係数、降雨強度、確率年、算定式） 2) 流出量の算定は妥当か。（粗度係数等） 3) 施設選定は妥当か。 （経済性、施工性、機能性、計画性） ①断面形式の検討 ②ヒューム管及び硬質塩化ビニール管等 ③基礎型式選定の適否 ④人孔・集水柵形式及び設置間隔は妥当か。 ⑤浸透柵の設定は妥当か。 4) 断面決定で余裕が見込んであるか。 5) 排水勾配（流速の許容範囲）は妥当か。 6) 最小土被りの設定は妥当か。 7) 協議関係は必要か。				
14	排水処理	1) 排水系統は適正か。 2) 流末位置は適正か。				
15	舗装工	1) 舗装種別及び構造の適用（交通量、設計CBR）に問題はないか。 2) 再生材の使用は考慮されているか。 3) 特別箇所（軟弱地盤、低盛土等）の路床改良の要否 4) 低騒音（排水性）舗装路線か。				
16	安全施設工	1) 道路照明、ブリンカーライト等の施設計画（配管計画含む）は適正か。 2) 防護柵等道路付属物の配置及び規格は適正か。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
17	小構造物	1) 標準設計の適用方法は適正か。 2) 重力式擁壁、ブロック積等を設ける理由、型式高さ等決定根拠は明確か。 3) 二次製品の適用は適正か。				
18	関連道路 (側道、副道、取付交通)	1) 幅員、延長、断面等は適正か。 2) 沿道に対する高さ等の取合は考慮してあるか。 3) 舗装構成は決定しているか。				
19	環境及び景観検討	1) 環境及び景観検討の必要性、デザインコンセプト、範囲等は理解したか。 2) 環境及び景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は決定しているか。				
20	防雪対策	雪崩、地吹雪対策は考慮されているか。				
21	協議関連資料	1) 交差協議の調整は確認したか。 2) 地元及び地権者との調整は確認したか。 3) バス路線になるかどうか確認したか 4) 地下占有企業者との調整は確認したか。 5) 保安林及び埋蔵文化財等との調整は確認したか。 6) 東京都(区市町村)公害防止条例の適用区域及び規制値を確認したか。 7) 都市計画及び土地利用を確認したか。 8) 上位計画、開発行為及び電線類地中化を確認したか。 9) 土捨場、または土取場の位置、規模は確認したか。 10) 休憩施設、チェーン着脱場等の計画は確認したか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－ 1 ）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査①		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	

細部条件の照査項目一覧表 (照査 ②)

件名： _____

発注者名： _____

受託者名： _____

照査の日付： 平成 年 月 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	協議関連	協議は諸条件と合致しているか。				
2	施工計画	1) 工区分けは適正か。(暫定施工の有無を含む) 2) 施工性に問題はないか。 3) 暫定施工の考え方に問題はないか。				
3	設計計算	1) 片勾配、拡幅のすりつけに問題はないか。 2) 排水の系統及び通水断面に問題はないか。				
4	数量計算	1) 設計委託標準仕様書に基づいているか。				
5	土工及び法面	1) 切土断面の岩盤推定線は妥当か。 2) 用地の余裕幅は適正か。 3) 法面保護工の選定は適正か。 4) 切土材料と盛土材料への転用は適正か。				
6	軟弱地盤	1) 土質定数は整理されているか。 2) 盛土工程は適切か。(一般盛土部、構造物、水路切り廻し等) 3) 対策工の必要性と工種及びその範囲は適正か。 ①盛土安定対策 ②沈下対策 ③その他対策 4) サンドマットの厚さは施工性を考慮したか。 5) 動態観測の計画は作成されているか。 6) 暗渠排水計画(形状、間隔)は適正か。 7) 沈下量を土量計算しているか。 8) 用排水路で沈下すると不都合なものはないか。 ある場合はその対策。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
7	函渠工	1) 本体長、伸縮目地の決定方法は適正か。 2) 軟弱地盤上に構築される場合の鉛直土圧係数は考慮してあるか。(杭基礎などの場合) 3) 沈下の大きい場所での特別の処置(段落ち防止枕等)は考慮しているか。 4) 不等沈下はないか。 5) 斜角のつく場合の考慮をしてあるか。 (斜角部の設計方法) 6) 踏掛版の形状、寸法は適正か。 7) 基礎工の設計は適正か。 8) 標準設計適用以外の応力チェックはされているか。 9) ハンチを付さない場合、その対策はしてあるか。 10) ウイング厚と本体厚とのバランスはとれているか。 11) 防水工は考慮されているか。 12) 照明配管、排水は考慮されているか。 13) 配筋に対するチェックはされているか。 14) 管理上の問題は残されていないか。 (道路、水路等) 15) 現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。				
8	擁壁工	1) 標準設計適用以外の応力チェックはされているか。 2) 擁壁高さの決定、地山の取合、底面の勾配は適正か。 3) 背面土の適用は適正か。(施工時の安定性等) 4) 目地間隔は適正か。 5) 液状化の検討は適正か。 6) 基礎工の設計は適正か。 ・直接基礎(地盤反力、安定、置換深さ等) ・杭基礎(杭間隔、杭種、杭径、定着方式等) 7) 根入れ深さは適正か(土質条件、水の影響)、斜面部での余裕幅は適正か。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②		備考
			該当提示資料 対象該当ページ	照査	
9	排水工	8) 地下水、湧水等の処理について考慮してあるか。 9) 施工性を考えた構造となっているか。 (地形その他の現場条件による機械の選定条件等) 10) 応力計算時の常時、地震時の選択は適正か。 11) 配筋に対するチェックはされているか。 1) 排水施設相互及び道路施設との取合いは考慮されているか。 2) 安全対策(蓋、防護柵等)は考慮されているか。 3) 流末はチェックされているか。(流末河川のHWLより下の場合の対策が行われているか。) 4) 排水系統を変更していないか。 5) 現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。 6) 設計区間外の施設との取合いは考慮されているか。 7) 既設水路等の付替えは、必要に応じて切廻しを検討してあるか。 8) その他			
10	舗装工	1) 舗装工の設計は適正か。 2) 段階施工のできる設計となっているか。 3) 再生材の使用は適正か。 4) その他			
11	小構造物	1) 標準設計適用以外のものの応力概略チェックはされているか。 2) その他			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
12	仮設構造物	1) 山留め形式の選定は適切か。 (現道拡幅時の仮設、構造物掘削の工法) 2) 安全性の確保、施工性、現地との整合、近接構造物との関係に配慮したか。				
13	環境及び景観検討	1) 環境(騒音、振動)面の対応は適正か。 2) 景観(植栽等)性は妥当か。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査②		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	

成果品の照査項目一覧表 (照査 ③)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	資料照査	
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 安定計算結果は許容値を満たすか。 3) 許容応力度の取り方は正しいか。 4) 排水の流出量と通水量を照査したか。				
2	電算機による構造解析	1) 構造モデルと実際の構造系は合致しているか。 2) 入力データの算出根拠は明記されているか。 3) 出力データの読み取り方法を具体的に説明しているか。 4) 利用したプログラム名とその会社名は明記されているか。				
3	設計図	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 設計委託標準仕様書の設計図作成要領と整合しているか。 3) 一般図には必要項目が記載されているか。（設計条件、地質条件、法線、水位、付属構造物等） 4) 構造物の基本寸法、高さ関係は照合されているか。 5) 構造詳細は、適用基準及び標準構造と整合しているか。 6) 取り合い部の構造寸法は整合しているか。 7) 各設計図がお互いに整合しているか。（一般平面図と縦横断図、構造図と配筋図、構造図と仮設図 e t c .） 8) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 （特に応力計算書、安定計算書等の結果が適用範囲を含めて整合しているか。） <ul style="list-style-type: none"> ・壁厚 ・鉄筋（径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、かぶり、ガス圧接位置等） ・鋼材形状、寸法 ・使用材料 				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
4	数量計算書	1) 数量の単位及び数値の取り方は、設計委託標準仕様書の数値基準と整合しているか。 2) 数量計算に用いた寸法・数値は図面と整合しているか。 3) 数量の取りまとめは、種類毎、材料毎等に整理されているか。 4) 数量計算の根拠となる資料(根拠図等)は作成されているか。 5) 施工を考慮した数量計算となっているか。(コンクリート打設量における後打ち量の分離等) 6) 数量総括表が正しく整理されているか。				
5	施工方法の検討	1) 施工時の道路・河川等の切り廻し計画は適切か。 2) 工事用道路、運搬路計画は適切か。 3) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。 4) 部材長、部材寸法、部材重量は適正か。 5) 施工法、施工順序、施工工程は適切か。 6) 支保工、仮設備(仮設電源、照明、昇降設備等)は適切か。 7) 安全性、経済性は適切か。 8) 暫定計画、完成計画と整合しているか。 9) 環境対策は適切か。 10) 施工機械の種類、規格は適切か。				
6	設計調書	1) 調書の記入は適切か。 2) 相対的に見て問題はないか。(主要寸法、主要数値を他工事の類似例や一般例と比較する。例：m ² 当たりコンクリート量、m ³ 当たり鉄筋量の比較)				

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
7	報告書	1) 打合わせ事項は反映されているか。 2) 条件設定の考え方が適切か。 3) 比較検討の結果が整理されているか。 4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。 5) 基準等の引用には出典図書及びページが明記されているか。				
8	成果品	1) 成果品は、設計委託標準仕様書の成果品一覧表と整合しているか。				
9	TECRIS	1) TECRISの登録は行ったか。				

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査③		備考
			該当提示資料 対象該当ページ	照査	

道路詳細設計調書（その1）

（ / ）

件名	場所		受託者名		施工箇所	起点側			
			照査・主任技術者名			終点側			
路線名	部署名		作成年月日		平成 年 月 日				
延長	新設（暫定・完成） 拡幅の区分		防音壁の設置の有無		付帯施設の有無				
設計 条件	道路規格		第 種 第 級		設計速度		km/h		
	計画交通量（大型車混入率）		年度		地域分類		区部 ・多摩部		
	横断面の構成		一 般 部				橋 梁 部		
幾 何 構 造	最小曲線半径		最小曲線長		最小視距		最小緩和曲線長		
	最急縦断勾配		同左延長		最小縦断曲線長		最小縦断曲線半径		
	横断勾配		片勾配の最大値		最大合成勾配		片勾配のすり付率		
土 工	主たる地質		盛土部		切土部		のり勾配		
	のり面工の種類		盛土		切土		盛土		
土砂			軟岩		硬岩				
最大盛土高		最大切土高		小段の幅員		小段の高さ		軟弱地盤対策、地すべり対策	
								防雪施設の要否	

※下段は、基準値を記入すること。

道路詳細設計調書（その2）

（ / ）

舗装	舗装の種類	交通区分	設計 C B R	主要	盛土量	切土量	のり面積	切土 ----- 盛土
	舗装構成	路盤の種類	上層 ----- 下層	数量	舗装面積 車道 ----- 歩道	横断函梁数	箇所	延長 土工 橋梁 トンネル
	連断層 凍上抑制層の有無	自歩道の舗装	排水	降雨強度	断面 決定 概要	備考欄		
			流出係数 路面 ----- 隣地					
主要流末概念図								
線形概要	測点							
	縦断	勾配						
	線形	距離						
	平面線形							

※下段は、基準値を記入すること

函渠部詳細設計調書（その1）

1. 一般事項

件名	
施設名	
路線名	
場所	
部署名	
受託者名	
照査・主任技術者名	/
設計年月日	平成 年 月 日

2. 設計条件

基本構造	用途区分	道路・水路・その他（ ）		適用基準等	
	構造形式	一連ボックス・二連ボックス			
	製品区分	工場製品・場所打ち			
	標準設計	無・有	標準設計図No.		
	内空寸法		一連・（二連左）	（二連右）	
		幅	m	m	
		高さ	m	m	
	総延長	L = m	分割数	n =	
	斜角	左口 ° / "	右口 ° / "		
	縦断勾配	i = %	すべり止め	有・無	
設計土被り	H _D = m	単位重量	γ = ft/m ³		
水位	H _w = m	内部土砂	H _s = m		
基礎工	形式	直接・置換・杭*	杭種・杭径		
支持地盤	土質		N 値	N =	
	単位重量	γ = ft/m ³	内部摩擦角	φ = °	
	粘着力	C = ft/m ²	許容支持力	Q = tf	
使用材料	コンクリート	設計基準強度 σ _{ck} = kgf/cm ²			
	鉄筋	SD295・SD345			

注：適用基準等欄の記載例

道示 I - 1 ~ 2（適用基準短縮名一記載頁）で表示する。

注：*は杭基礎設計調書を参照のこと。

函渠部詳細設計調書（その2）

3. 形状寸法データ

本体	H _r	m	B _r	m				
	H ₁	m	B ₁	m				
	H ₂	m	B ₂	m				
	H ₃	m	B ₃	m				
	H ₄	m	B ₄	m				
ウイング	左口左側		左口右側		右口左側		右口右側	
	b ₁	m	b ₁	m	b ₁	m	b ₁	m
	b ₂	m	b ₂	m	b ₂	m	b ₂	m
	h ₁	m	h ₁	m	h ₁	m	h ₁	m
	h ₂	m	h ₂	m	h ₂	m	h ₂	m
	t ₁	m	t ₁	m	t ₁	m	t ₁	m
	t ₂	m	t ₂	m	t ₂	m	t ₂	m
土留壁	左口左側		左口右側		右口左側		右口右側	
	c ₁	m	c ₁	m	c ₁	m	c ₁	m
	c ₂	m	c ₂	m	c ₂	m	c ₂	m
	d _H	m	d _H	m	d _H	m	d _H	m

函渠部詳細設計調書（その3）

4. 部材応力度

概 要 図			寸 法 図						設 計 位 置 図							
			頂 版			側 壁			底 版			ウ イ ン グ				
設 計 位 置			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	左口左側	左口右側	右口左側	右口右側	
断 面 図																
断 面 力	M	tf・m/m														
	N	tf/m														
	S	tf/m														
鉄 筋 量	必 要	cm ²														
	最 小	cm ²														
	設 計	cm ²														
	鉄 筋 径	mm														
	間 隔	mm														
	か ぶり	mm														
応 力 度	設 計 値	σ_c	kgf/cm ²													
		σ_s	kgf/cm ²													
		τ_o	kgf/cm ²													
	許 容 値	σ_{ca}	kgf/cm ²													
		σ_{sa}	kgf/cm ²													
		τ_{oa}	kgf/cm ²													
設 計 計 算 書 ・ 頁																
設 計 図 ・ 番 号																

擁壁工詳細設計調書（その1）

1. 一般事項

件名	
施設名	
路線名	一般国道 号
場所	
部署名	
受託者名	
照査・管理技術者名	
設計年月日	平成 年 月 日

3. 土砂データ

項目	単位	裏込土砂	支持地盤	一般土砂
単位重量 (τ)	ft/m ³			
粘着力 (C)	ft/m ²			
せん断抵抗角 (ϕ)	度			
変形係数 (E_o)	kgf/cm ²			
変形係数算出方法	—			
一軸圧縮強度 (q_u)	kgf/cm ²			

2. 構造条件

擁壁形式				適用基準等
設置区分	背面盛土・背面切土・橋梁等取付・その他 ()			
製品区分	工場製品・場所打ち			
標準設計	無・有	標準設計図No.		
基礎形式	直接・置換・杭*	杭種・杭径		
盛土高さ	$H_o =$ m	法面勾配	N =	
	上載分布荷重 P = ft/m ²			
浮力考慮位置	$H_w =$ m	突起	無・有	
コンクリート強度	$\sigma_{ck} =$ kgf/cm ²			
鉄筋材質	SD295・SD345			
設計水平震度	地域別補正係数	$\alpha_1 =$	地盤別補正係数	$\alpha_2 =$
	$K_h = \alpha_1 \cdot \alpha_2 \cdot 0.15 =$			
地盤種別	土	質	層厚	平均N値
	第1層			
	第2層			
	第3層			
	第4層			
液状化判定	有・無			

注：適用基準等欄の記載例

道示 I - 1 ~ 2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

注：*は杭基礎設計調書を参照のこと。

擁壁工詳細設計調書 (その2)

4. 形状寸法データ

擁壁延長	TL = m		前面土砂高		HS = m		
防護柵作用荷重	PH = tf/m		作用位置		HP = m、BP = m		
断面 (大側)	HT	H1	H2	H3			
	m	m	m	m			
	BT	B1	B2	B3	B4	B5	B6
	m	m	m	m	m	m	m
断面 (小側)	HT	H1	H2	H3			
	m	m	m	m			
	BT	B1	B2	B3	B4	B5	B6
	m	m	m	m	m	m	m

5. 安定計算結果

直接基礎安定計算結果総括表						
ケ	一	ス	常		地震	
浮	力		有	無	許容値	許容値
偏	心	量(c) (m)			B/6=	B/3=
滑	動	安全率			1.5	1.2
最大	地盤	反力度(tf/m ²)				
鉛直	支持	力(Q) (tf/m)				

杭基礎安定計算結果総括表						
ケ	一	ス	常		地震	
浮	力		有	無	許容値	許容値
杭頭	押	込 (tf/本)				
反力	引	抜 (tf/本)				
水平	変	位 (mm)				

擁壁工詳細設計調書（その3）

6. 部材応力度

概 要 図			寸 法 図						設 計 位 置 図						
			壁						フ ー チ ン グ				突 起		
部 材			基 部		基部より m		基部より m		前 趾		後 趾		突 起		
設 計 位 置			常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	
荷 重 状 態			常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	常 時	地震時	
断 面 図															
断 面 力	M	tfm/m													
	N	tf/m													
	S	tf/m													
鉄 筋 量	必 要	cm ²													
	最 小	cm ²													
	設 計	cm ²													
	鉄 筋 径	mm													
	間 隔	mm													
か ぶり	mm														
応 力 度	設 計 値	σ c	kgf/cm ²												
		σ s	kgf/cm ²												
		τ o	kgf/cm ²												
	許 容 値	σ ca	kgf/cm ²												
		σ sa	kgf/cm ²												
		τ oa	kgf/cm ²												
設 計 計 算 書 ・ 頁															
設 計 図 ・ 番 号															

基礎工詳細設計調書 (その 1)

(/)

1. 一般事項

件名		部署名	
施設名		受託者名	
路線・河川名		照査・主任技術者名	
場所		作成年月日	平成 年 月 日
		左右岸の別	

3. 基礎工配置データ

軸方向	No.	距離 (X)	奥行方向の本数	軸角	No.	距離 (Y)	奥行方向の本数
	2	m	本	角	2	m	本
	3	m	本	方	3	m	本
	4	m	本	向	4	m	本
	5	m	本	杭	5	m	本
	6	m	本	配	6	m	本
	7	m	本	置	7	m	本
	8	m	本	デ	8	m	本
	9	m	本	ー	9	m	本
	10	m	本	タ	10	m	本

2. 基本事項

杭群への 作用力	M	N	H	施工偏心 ΔM	適用基準等
	tf・m	tf	tf	tf・m	
基礎 工 形 態	基礎形式	径 (または短辺×長辺)		基礎長	
		m × m		m	
	頭部処理	施工方法		先端処理	
	底版の根入深さ	突出長		有効根入長	
	L1= m	L2= m	L3= m		
地 層 区 分	l1= m	l2= m	l3= m		
	N1=	N2=		N3=	
	l4= m	支持層地盤		l5= m	
	N4=			N5=	
基本 デ ー タ	鉄筋材質	コンクリート強度		杭材質	腐食代
		σ _{ck} = kgf/cm ²			mm
	杭頭平均N値	変形係数		バネ	(常) KH= tf/m ³ KV= tf/m
		E _o = kgf/cm ²		定数	(地) KH= tf/m ³ KV= tf/m
	許容支持力 (押込)	許容支持力 (引抜)	許容支持力 (水平)	変位	
安 定	(常)				
	(地)				

注：適用基準等、欄の記載例
道示 I - 1 ~ 2 (適用基準短縮名 - 記載頁) で表示する。

基礎工詳細設計調書 (その 2)

軸 方 向

(/)

計 算 ケ ー ス 名		単 位	常 時		地 震 時		備 考
安 定 力	杭 偏 心 量	c	m				設計計算書
	頭 全 鉛 直 力	ΣV	t				P
	外 全 水 平 力	ΣH					設計図番号
	力 偏 心 モーメント	ΣM	t m				/
計 算 及 び 発 生 の 力	反 力	杭頭変位量	水平変位 δx	mm			設計計算書 P
			鉛直変位 δy	mm			
	変 位	水平力	1本あたり	t			設計図番号
	杭 生 力	杭反力	前例 P Nmax	t / 本			
		後例 P Nmin	t / 本				
計 算 結 果	杭 鉄筋又は 板厚	Nmax	σC	kgf/cm ²			設計計算書 P
			σS	kgf/cm ²			
	Nmin	σC	kgf/cm ²			設計図番号 /	
		σS	kgf/cm ²				
許 容 支 持 力	鉛直支持力	tf / 本				設計計算書P 設計図番号 /	
	引 抜 力	tf / 本					
許 容 応 力 度	圧縮応力度	kgf/cm ²				設計計算書P 設計図番号 /	
	引張応力度	kgf/cm ²					
杭 頭 部 計 算 結 果	垂 直 支 圧 応 力 度	発 生 値	kgf/cm ²			設計計算書P 設計図番号 /	
		許 容 値	kgf/cm ²				
	押 抜 き せん断応力度	発 生 値	kgf/cm ²			設計計算書P 設計図番号 /	
		許 容 値	kgf/cm ²				
	引 抜 き せん断応力度	発 生 値	kgf/cm ²			設計計算書P 設計図番号 /	
		許 容 値	kgf/cm ²				
水 平 支 圧 応 力 度	発 生 値	kgf/cm ²			設計計算書P 設計図番号 /		
	許 容 値	kgf/cm ²					
水 平 方 向 押 抜 き せん断応力度	発 生 値	kgf/cm ²			設計計算書P 設計図番号 /		
	許 容 値	kgf/cm ²					

計 算 ケ ー ス 名		単 位	常 時		地 震 時		備 考
仮 想 生 産 値	RC 断 面 値	使 用 鉄 筋 量		cm ²			設計計算書 P
		発 生	圧縮応力度	kgf/cm ²			設計図番号
			引張応力度	kgf/cm ²			/
			せん断応力度	kgf/cm ²			
ケ ー ス 方 向	ソ ン 基 礎	許 容 値	水 平 方 向	使用鉄筋量	cm ²		設計計算書 P
				圧縮応力度	kgf/cm ²		設計図番号
				引張応力度	kgf/cm ²		/
				せん断応力度	kgf/cm ²		
ソ ン 基 礎	許 容 値	縦 方 向	使用鉄筋量	cm ²		設計計算書 P	
			圧縮応力度	kgf/cm ²		設計図番号	
			引張応力度	kgf/cm ²		/	
			せん断応力度	kgf/cm ²			
基 礎	許 容 値	許 容 値	圧縮応力度	kgf/cm ²		設計計算書 P	
			引張応力度	kgf/cm ²		設計図番号 /	
基 礎	許 容 値	許 容 値	圧縮応力度	kgf/cm ²		設計計算書 P	
			引張応力度	kgf/cm ²		設計図番号 /	

軸直角方向

基礎工詳細設計調書 (その 3)

(/)

計算ケース名		単位	常 時		地震時		備 考	
安定	杭頭	偏心量 c	m				設計計算書	
	外力	全鉛直力 ΣV	t				P	
		全水平力 ΣH					設計図番号	
		偏心モーメント ΣM	t m				/	
計算	反力	杭頭変位量	水平変位 δx	mm			設計計算書	
			鉛直変位 δy	mm			P	
	変位	水平力	1本あたり	t			設計図番号	
		発	杭反力	前例 P Nmax	t / 本			/
	後例 P Nmin		t / 本					
杭の	力	最大曲げ	杭頭部 Mt	t m			設計計算書P	
		モーメント	地中部 Mm	t m			設計図番号 /	
計算結果	杭体	鉄筋又は板厚	Nmax	σ C	kgf/cm ²			設計計算書
				σ S	kgf/cm ²			P
		応力	Nmin	σ C	kgf/cm ²			設計図番号
				σ S	kgf/cm ²			/
許容	支持力	鉛直支持力	tf / 本				設計計算書P	
		引抜き力	tf / 本				設計図番号 /	
許容	応力度	圧縮応力度	kgf/cm ²				設計計算書P	
		引張応力度	kgf/cm ²				設計図番号 /	
杭頭部	計算	結果	垂直支圧応力度	発生値	kgf/cm ²			設計計算書P
				許容値	kgf/cm ²			設計図番号 /
	引抜き	せん断応力度	発生値	kgf/cm ²			設計計算書P	
			許容値	kgf/cm ²			設計図番号 /	
	せん断	せん断応力度	発生値	kgf/cm ²			設計計算書P	
			許容値	kgf/cm ²			設計図番号 /	
水平	支圧	応力度	発生値	kgf/cm ²			設計計算書P	
			許容値	kgf/cm ²			設計図番号 /	
水平	方向	引抜き	発生値	kgf/cm ²			設計計算書P	
		せん断応力度	許容値	kgf/cm ²			設計図番号 /	

計算ケース名		単位	常 時		地震時		備 考		
仮想	RC	使用鉄筋量		cm ²			設計計算書		
		断面	圧縮応力度	kgf/cm ²				P	
			引張応力度	kgf/cm ²				設計図番号	
			せん断応力度	kgf/cm ²				/	
ケ	平	方	向	使用鉄筋量	cm ²			設計計算書	
				圧縮応力度	kgf/cm ²				P
				引張応力度	kgf/cm ²				設計図番号
				せん断応力度	kgf/cm ²				/
ソ	ン	方	向	使用鉄筋量	cm ²			設計計算書	
				圧縮応力度	kgf/cm ²				P
				引張応力度	kgf/cm ²				設計図番号
				せん断応力度	kgf/cm ²				/
基礎	許	容	値	圧縮応力度	kgf/cm ²			設計計算書P	
				引張応力度	kgf/cm ²			設計図番号	
				せん断応力度	kgf/cm ²			/	

平面交差点詳細設計照査要領

平成10年5月

基本条件の照査項目一覧表

(照査 ①)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

[道路詳細設計と重複するものは、照査の必要ない]

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	設計の目的、主旨	1) 目的、主旨は理解したか。 2) 地域構想等に関する上位計画を把握したか。 3) 設計の内容、範囲、工程等について具体的に把握したか。				
2	資料の収集、確認 (1)予備設計に関する資料	1) 予備設計の計画は適正か。 2) 必要な貸与資料があるか。				
3	現地踏査	1) 地形、現地状況（旧河道、用排水路、井戸、現場周辺の土地利用等）を確認したか。 2) 隣接工区との関係を確認したか。 3) 現道状況及び交通状況を把握したか。（家屋連坦、迂回路、道路幅員、ゴミ集積所、交通量、車両規制、通学路、緊急車両の通行の可否等） 4) 周辺構造物との関係を把握したか。（学校、病院、鉄道等） 5) 環境状況（騒音、振動、防塵、日照等の配慮）を把握したか。 6) 埋設物、架空線等（下水管、人孔、ガス、水道、ケーブル等）の位置、深さ、形状等を把握したか。 7) ボーリング図は適正か。（近接工区と関連性等） 8) 地質状況を把握したか。（季別地下水位、地下水利用状況、被圧の有無） 9) 貸与資料と現地の相違はないか。 10) 法令、条件に関する調査の必要性があるか。 11) 大規模交通発生施設、歩行者の動線を把握したか。 12) 施工時の注意事項を把握したか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	資料照査	
4	設計条件	1) 道路の構造、規格は適正か。 2) 交差点形状は適正か。 3) 平面交差の間隔は適正か。 4) 方向別交通量は適正か。 5) 交差点制御方法は適正か。 6) 設計車両は適正か。 7) 積雪寒冷地の適用は適正か。 （幅員、除雪スペース等） 8) 歩行者の動線は適正か。 9) 関連する設計と整合がとれているか。 10) 福祉のまちづくり条例と整合がとれているか。				
5	幾何構造	1) 平面及び縦断線形は適正か。 2) 幅員構成は適正か。 3) 視距、見通し距離は適正か。 4) 付加車線の設置は適正か。 5) 交差角は適正か。 6) 本線シフトは適正か。 7) 隅切りは適正か。				
6	地形条件	1) 用地上の座標値はあるか。 2) 用地境界を確認したか。 3) 用地の権利関係を確認したか。 4) 施工ヤード、スペースを確認したか。				
7	使用材料	1) 使用材料と規格（市場性、経済性を含む）、許容応力度は妥当か。 2) 新材料、再生材の適用の検討を行ったか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
8	関連道路（側道、副道、取付支道）	1) 主、従道路の優先関係は明確となっているか。 2) 副道等の取付方法は適正か。 3) 従道路の整備は適正か。				
9	交通制御と交通処理	1) 信号現示と交差点飽和度は適正か。 2) 交差点交通容量は適正か。 3) 交通処理方法は適正か。 4) 横断歩道及び停止線位置は適正か。 5) バス停留所の位置、停車帯の形状等は適正か。 6) 沿道からの出入り箇所は適正か。				
10	計画条件の整理	1) 土工及び法面工の計画は適正か。 （道路詳細設計との整合） 2) 小構造物及び構造物の計画は適正か。 （道路詳細設計との整合） 3) 排水工の計画は適正か。 （道路詳細設計との整合） 4) 舗装工の計画は適正か。 （道路詳細設計との整合）				
11	環境及び景観検討	1) 環境及び景観検討の必要性、デザインコンセプト、範囲等は理解したか。 2) 環境及び景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は決定しているか。				
12	協議調整事項の確認	1) 関係諸官庁、諸機関及び地元との協議調整事項は設計に反映されているか。 2) 協議条件と一致しているか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－ 1 ）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査①		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	

細部条件の照査項目一覧表 (照査 ②)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

〔道路詳細設計と重複するものは、照査の必要ない〕

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	協議関係	協議は諸条件と合致しているか。				
2	施工計画	1) 工区分けは妥当か。(暫定施工の有無を含む) 2) 施工性に問題はないか。 3) 暫定施工の考え方に問題はないか。 4) 現道交通確保の安全性に問題はないか。				
3	設計計算	1) 交通処理能力に問題はないか。 2) 排水の系統及び通水断面に問題はないか。				
4	数量計算	1) 設計委託標準仕様書に基づいているか。				
5	詳細検討	1) 中央分離帯の位置は適正か。 2) 導流路及び歩道の巻き込みは適正か。 3) 路面標示は適正か。 4) 付加車線等の諸元は適正か。 5) 信号、照明、安全施設等の設置計画は適正か。 6) 交通制御面で近接する交差点との整合性はとれているか。 7) 積雪寒冷地の対応は適正か。 8) 道路詳細設計と整合はとれているか。 9) 土工及び法面工の設計は適正か。 (道路詳細設計と整合) 10) 小構造物及び構造物の設計は適正か。 (道路詳細設計と整合) 11) 排水工の設計は適正か。 (道路詳細設計と整合) 12) 舗装工の設計は適正か。 (道路詳細設計と整合)				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当 対象	提示資料 該当ページ	照査	
6	環境及び景観検討	13) 用地幅は適正か。 (道路詳細設計と整合) 1) 環境(騒音、振動)面の対応は妥当か。 2) 景観(植栽等)性は妥当か。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査②		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	

成果品の照査項目一覧表 (照査 ③)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

[道路詳細設計と重複するものは、照査の必要ない]

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 計算結果は交通処理能力を満たすか。 3) 排水の流出量と通水量を照査したか。 (道路詳細設計と整合)				
2	電算機による構造解析	1) 構造モデルと実際の構造系は合致しているか。 2) 入力データの算出根拠は明記されているか。 3) 出力データの読み取り方法を具体的に説明しているか。 4) 利用したプログラム名とその会社名は明記されているか。				
3	設計図	1) 打合わせ事項は反映されているか。 2) 設計委託標準仕様書の設計図作成要領と整合しているか。 3) 一般図には必要項目が記載されているか。(設計条件、地質条件、法線、水位、付属構造物等) 4) 構造物の基本寸法、高さ関係は照合されているか。 5) 構造詳細は、適用基準及び標準構造と整合しているか。 6) 取り合い部の構造寸法は整合しているか。 7) 各設計図がお互いに整合しているか。(一般平面図と縦横断面図、構造図と配筋図、構造図と仮設図 e t c.) 8) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 (特に応力計算書、安定計算書等の結果が適用範囲を含めて整合しているか。) ・壁厚 ・鉄筋(径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、かぶり、ガス圧接位置等)				

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料	照査	
4	数量計算書	<ul style="list-style-type: none"> ・鋼材形状、寸法 ・使用材料 <ol style="list-style-type: none"> 1) 数量の単位及び数値の取り方は、設計委託標準仕様書の数値基準と整合しているか。 2) 数量計算に用いた寸法・数値は図面と整合しているか。 3) 数量の取りまとめは、種類毎、材料毎等に整理されているか。 4) 数量計算の根拠となる資料(根拠図等)は作成されているか。 5) 施工を考慮した数量計算となっているか。(コンクリート打設量における後打ち量の分離等) 6) 数量総括表が正しく整理されているか。 				
5	施工方法の検討	<ol style="list-style-type: none"> 1) 施工時の道路・河川等の切り廻し計画は適切か。 2) 工事用道路、運搬路計画は適切か。 3) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。 4) 部材長、部材寸法、部材重量は適正か。 5) 施工法、施工順序、施工工程は適切か。 6) 支保工、仮設備(仮設電源、照明、昇降設備等)は適切か。 7) 安全性、経済性は適切か。 8) 暫定計画、完成計画と整合しているか。 9) 環境対策は適切か。 10) 施工機械の種類、規格は適切か。 				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料	照査	
6	設計調書	1) 調書の記入は適切か。 2) 相対的に見て問題はないか。(主要寸法、主要数値を他工事の類似例や一般例と比較する。例：m ² 当たりコンクリート量、m ³ 当たり鉄筋量の比較)				
7	報告書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 条件設定の考え方が適切か。 3) 比較検討の結果が整理されているか。 4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。 5) 基準等の引用には出典図書及びページが明記されているか。				
8	成果品	1) 成果品は、設計委託標準仕様書の成果品一覧表と整合しているか。				
9	TECRIS	1) TECRISの登録は行ったか。				

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査③		備考
			該当提示資料 対象該当ページ	照査	

平面交差点詳細設計調書（その1）

1. 計画概要

件名						
場所						
部署名						
受託者名	(監査・主技術者) /					
作成年月日	平成 年 月 日					
事業区分	点(交差点)・線(道路)・面(地域)の改良・新設(○印)					
全体計画	km		今回計画(内数)		km	
道路名	主道路					
	主道路					
	従道路					
	従道路					
道路の構造・規格	主従の別	道路区分	設計速度(km/h)	最急縦断勾配(%)	最小曲線半径(m)	標準横断面構成(m)
	主	種 級	-----	-----	-----	全幅 m
	主	種 級	-----	-----	-----	全幅 m
	従	種 級	-----	-----	-----	全幅 m
	従	種 級	-----	-----	-----	全幅 m
標準横断面図						
主						
従						

※下段は適用基準等、発行年月日と適合ページを記入する。

2. 交差点計画

交差点名	通称・番号・記号等					
交差点部設計計画	交差点制御方法(信号制御・一時停止)					
	主従の別	設計車両(○印)	交差点付近の設計速度	交差点付近横断勾配・区間距離	曲線半径(m)	交差角度
	主	小型車	-----	-----	-----	—
	従	普通車 セミトレ	-----	-----	-----	度
右左折車通行方法			導流路曲線半径(m)		導流路幅員(m)	
主	方面から	右折		外側	内側	
		左折		外側	内側	
	方面から	右折		外側	内側	
		左折		外側	内側	
従	方面から	右折		外側	内側	
		左折		外側	内側	
	方面から	右折		外側	内側	
		左折		外側	内側	
交通量	主			従		
	<ul style="list-style-type: none"> ・現況 ・予測 ・車種別 ・方向別 ・歩行者 ・特異交通流等 					
付加車線設置計画	主			従		
	計画有・無(○印) 右折・左折車線(○印) 付加車線(折)の必要性			計画有・無(○印) 右折・左折車線(○印) 付加車線(折)の必要性		
	(有・無)			(有・無)		
	滞留長 テーパー長(減速車線長)			滞留長 テーパー長(減速車線長)		
付加車線幅員			付加車線幅員			
本線シフト区間長			本線シフト区間長			

平面交差点詳細設計調書（その2）

(/)

3. 道路管理者所管の交通安全施設等の計画

視線誘導標	(有・無) (交差点部 ・ 計画区間全線)
道路照明	(有・無) (交差点部 ・ 計画区間全線)
防護柵	(有・無) (交差点部 ・ 計画区間全線)
歩道	(有・無) (両側 ・ 片側) (歩車道境界 ^{アップ} の高さ cm) (マウントアップ ・ フラット)
	<ul style="list-style-type: none"> ・計画区間内のバス停留所の有無 (有・無) ・交差点付近のバス停留所の有無 (有・無) ・バス停留所の有無 (有・無) ・必要性の有無 (有・無) ・バス停留所の位置の適否 (交差点 流出側 ・ 流入側) (見通し 良 ・ 不良)
通学路	通学路の指定 (有・無) 将来の可能性 (有・無)
その他	

注：道路照明、バス停、通学路の位置等は、図面上に正確に図示すること。

4. 交通規制計画

線の規制	主	現況	事業後
	従	現況	事業後
点の規制	主	現況	事業後
	従	現況	事業後
信号機	交差点名 概設信号機 (有 ・ 無) 信号運用状況 三色(時間 ~) 点灯(時間 ~) 減灯(時間 ~) 移設, 増灯の必要性 (有 ・ 無) 新設の必要性 (有 ・ 無)		
横断歩道・自転車横断帯			
その他			

5. 事業計画上の問題点及び今後の調整事項

電線共同溝詳細設計照査要領

平成10年5月

基本条件の照査項目一覧表

(照査 ①)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料	照査	
1	設計の目的・主旨、範囲、内容、数量、履行期間	1) 目的・主旨を理解したか。 2) 設計の範囲、内容、数量、履行期間を把握したか。 3) 隣接工区との関係は確認したか。				
2	貸与資料の確認	1) 貸与資料の不足点、追加事項はあるか。				
3	現地踏査	1) 地形、現地状況（旧河道、用排水路、井戸、現場周辺の土地利用等）を確認したか。 2) 隣接工区との関係を確認したか。 3) 現場状況及び交通状況を把握したか。（家屋連坦、迂回路、道路幅員、ゴミ集積所、交通量、車両規制、通学路、緊急車両の通行の可否等） 4) 周辺構造物との関係を把握したか。（学校、病院、鉄道等） 5) 環境状況（騒音、振動、防塵、日照等の配慮）を把握したか。 6) 埋設物、架空線等（下水管、人孔、ガス、水道、ケーブル等）の位置深さ、形状等を把握したか。 7) ボーリング図は適正か。（近接工区との関連性等） 8) 地質状況を把握したか。（季別地下水位、地下水利用状況、被圧の有無） 9) 貸与資料と現地の相違はないか。 10) 法令、条件に関する調査の必要性があるか。				
4	適用基準	1) 適用基準の確認はされているか。				
5	使用材料	1) 使用材料の規格、許容応力度は適正か。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料	照査	
6	設計基本条件	1) 管路部、特殊部等の構造形式及び断面計画は適正か。 また現場打ち工法とプレキャスト工法との比較検討はされているか。（経済性、安全性、機能性、施工性、維持管理、環境等が考慮されているか。） 2) 荷重条件は適正か。 3) 特殊荷重の位置、大きさは確認したか。 4) 施工条件の基本を確認したか。 5) 関連する事業計画と詳細調整は図られているか。 6) 既設埋設物、近接構造物の位置、形状は確認したか。 7) 電線共同溝を設置する際、支障となる地下埋設物企業者とは調整しているか。 8) 参画電線管理者に入溝条数、内径及び特殊部の配置の確認がなされたか。 9) 関連する設計との整合はとれているか。				
7	幾何構造、線形条件	1) 線形上のコントロールポイントは明確にされているか。 2) 管路部、特殊部の形式は適正に把握しているか。 3) 平面線形は適正か。 4) 縦断線形は適正か。 5) 座標系と基準点は確認したか。 6) 起点、終点の計画（隣接工区との接続計画）は適正か。				
8	地盤条件	1) 土質定数の設定は適正か。隣接工区との整合は図られているか。 2) 地下水位、地下水の評価は適正か。 3) 液状化の判定は適正か。 4) 地盤内間隙水圧の判定は適正か。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
9	特殊検討	1) 交差物件の検討方法、条件は適正か。 2) 近接施工対策の検討方針、条件は適正か。 3) 本体縦断の検討方針、条件は適正か。 4) 山留設計の検討方針、条件は適正か。 5) 耐震の検討方針、条件は適正か。 6) 軟弱地盤の検討方針、条件は適正か。 7) その他の特殊検討の検討方針、条件は適正か。				
10	特殊部の継手、防水、排水	1) 継手の方式は適正か。（地盤条件が考慮されているか。） 2) 防水もしくは排水の方式は適正か。				

基本条件の照査項目一覧表（仮設構造物）

No	項目	主な内容	照査①		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	

細部条件の照査項目一覧表 (照査 ②)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②		備考
			該当提示資料 対象該当ページ	照査	
1	線形（平面、縦断）	1) 電線共同溝の線形は計画通り正しいか。 2) 起点、終点部の位置は正しいか。 3) 既設構造物及び将来計画構造物との離隔は施工性、交通処理を含め、協議によって決定されているか。 4) 移設可能な埋設物との離隔は施工性を考慮されているか。 5) 官民境界までの離隔は所定の離隔以上確保されているか。 6) 特殊部の位置は適正か。 7) 隣接工区との整合は図られているか。 8) 管路部の土被りは所定の深さ以上確保されているか。 9) 急勾配区間の勾配は適正であるか。 10) 道路勾配を考慮し、土被りが最小となるよう経済的かつ機能的に計画されているか。 11) 排水ピットの位置は適正か。 12) 軟弱地盤に対して配慮されているか。			
2	荷重条件	1) 舗装構成は適正か。 2) 地下水位の設定は適正か。 3) 各単位重量及び活荷重は適正か。 4) 静止土圧係数は適正か。（軟弱地盤は考慮されているか。） 5) 隣接工区との整合は図られているか。			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
3	本体構造	1) 適用基準は適正か。 2) 設計モデルは適正か。 3) 設計断面の内空形状寸法は適正か。 4) 使用材料、許容応力度は適正か。 5) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。 6) 材料使用区分は適正か。 7) 継手の構造形状、材質は適正か。（軟弱地盤を考慮しているか。） 8) 防水対策は適正か。 9) 耐震設計（縦断方向、液状化による浮き上がり）は考慮されているか。 10) 基礎構造は適正か。 11) 軟弱地盤対策は適正か。				
4	排水設備	1) 地下水位の位置について把握しているか。 2) 排水ピットを設ける場合の位置、形状は適正か。				
5	付属物	1) 各種付属物の設計は適正か。 2) 隣接工区と仕様は一致しているか。				
6	仮設工法の選定	1) 沿道条件、交通処理方法を検討しているか。 ・昼夜間作業帯の設定 ・使用機種の設定 ・歩道切削 2) 地質、地下水対策が適正であるか。 3) 既設構造物への影響が少ない構造であるか。 4) 既設構造物の許容変位は設定されているか。また、その変状防止対策方法は妥当であるか。 5) 経済性、施工性、安全性の面から総合的に工法の比較選定が行われているか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料	照査	
8	仮設構造物	1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。 2) 適用基準は正しいか。 3) 山留形式の選定は適正か。 4) 材料の選定は適正か。 5) 土質条件の設定は適正か。（地盤改良した場合、影響を考慮しているか） 6) 地下水位の設定は適正か。 7) 載荷重の設定は適正か。 8) 無覆工、覆工の判断は適正か。また、材質及び形状寸法は適正か。 9) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。 10) 中間杭の位置、ピッチ及び施工性は適正か。 11) 根入の長さの計算は必要項目の計算がされているのか。 12) ボイリング、ヒービング及び盤ぶくれの検討はされているか。 13) 補助工法の選定、範囲は適正か。				
9	施工計画	1) 施工方法及び順序（本体、仮設）は適正か。 2) 交通処理計画は適正か。 3) 同時施工は配慮されているか。 4) 環境への配慮はされているか。 5) 管路部の埋め戻しに、粒状改良土の使用の検討はなされているか。 6) 支障埋設物件は考慮されているか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査②		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	

成果品の照査項目一覧表 (照査 ③)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	設計計算書	1) 打合わせ事項は反映されているか。 2) 設計条件、施工条件は適正に運用されているか。 3) 設計結果は許容範囲内、かつ、許容応力度及び使用単位は適正か。				
2	設計図	1) 打合わせ事項は反映されているか。 2) 設計委託標準仕様書の設計図作成要領と整合しているか。 3) 一般図には必要項目が記載されているか。（設計条件、地質条件、法線、水位、付属構造物等） 4) 構造物の基本寸法、高さ関係は照合されているか。 5) 構造詳細は、適用基準及び標準構造と整合しているか。 6) 取り合い部の構造寸法は整合しているか。 7) 各設計図がお互いに整合しているか。（一般平面図と縦横断図、構造図と配筋図、構造図と仮設図 e t c .） 8) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 （特に応力計算書、安定計算書等の結果が適用範囲を含めて整合しているか。） <ul style="list-style-type: none"> ・壁厚 ・鉄筋（径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、かぶり、ガス圧接位置等） ・鋼材形状、寸法 ・使用材料 				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料	照査	
3	数量計算書	1) 数量の単位及び数値の取り方は、設計委託標準仕様書の数値基準と整合しているか。 2) 数量計算に用いた寸法・数値は図面と整合しているか。 3) 数量の取りまとめは、種類毎、材料毎に整理されているか。 4) 数量計算の根拠となる資料(根拠図等)は作成されているか。 5) 施工を考慮した数量計算となっているか。(コンクリート打設量における後打ち量の分離等) 6) 数量総括表が正しく整理されているか。				
4	施工方法の検討	1) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。 2) 施工法、施工順序、施工工程は適切か。 3) 安全性、経済性は適切か。				
5	設計調書	1) 調書の記入は適切か。 2) 相対的に見て問題はないか。(主要寸法、主要数値を他工事の類似例や一般例と比較する。例：m ² 当たりコンクリート量、m ³ 当たり鉄筋量の比較)				
6	報告書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 条件設定の考え方が適切か。 3) 比較検討の結果が整理されているか。 4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。 5) 基準等の引用には出典図書及びページが明記されているか。				
7	成果品	1) 成果品は、設計委託標準仕様書の成果品一覧表と整合しているか。				
8	TECRIS	1) TECRISの登録は行ったか。				

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

（追加項目記入表）

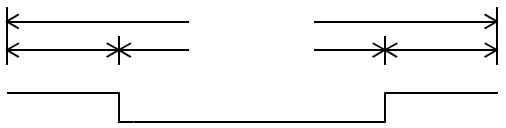
No	項目	主な内容	照査③		備考
			該当提示資料 対象該当ページ	照査	

○設計条件

入 溝 予 定 者 調 書 表

	入 溝 予 定 者		区 間		区 間		区 間	
	電 線 管 理 者	入 溝 線 種 類	No.	～ No.	No.	～ No.	No.	～ No.
電 力 線	東 京 電 力	K V	φ	条	φ	条	φ	条
		K V	φ	条	φ	条	φ	条
通 信 線	道 路 管 理 者	通 信 ・ 照 明	φ	条	φ	条	φ	条
		予 備	φ	条	φ	条	φ	条
	日 本 電 信 電 話 (株)	光 ケ ー ブ ル	φ	条	φ	条	φ	条
		メ タ ル ケ ー ブ ル	φ	条	φ	条	φ	条
	東 京 通 信 ネットワーク (株)		φ	条	φ	条	φ	条
	C A T V		φ	条	φ	条	φ	条
ゆ う せ ん		φ	条	φ	条	φ	条	

電線共同溝詳細設計調書

件名		作成年月日				
受注者名		照査技術者				
事務所名		主任技術者				
路線名		箇所				
電線共同溝名						
設計箇所	起点側		終点側			
延長		幅員構成				
適用示方書						
設計活荷重						
予備設計						
特殊検討	交差物件	有・無	箇所数		種別	
			最小離隔	m	対策	有・無
	近接施工	有・無	最小箇所数		種別	
			離隔	m	対策	有・無
	本体縦断検討	有・無	コントロール			
	大規模山留	有・無	箇所数		深さ	
	耐震設計	有・無	対策	有・無		
安定検討	有・無	箇所数		対策	有・無	
その他	有・無	種別		対策	有・無	
基本照査事項	現地調査の結果が設計に反映されているか。					
	線形（平面、縦断、横断）と道路との位置関係再照査。					
	試掘の位置、各種試験データ、地質柱状図の確認。					
	交通処理計画が適正に行われているか。					

基本照査事項	埋設物（既設、計画）との位置関係が検討されているか。			
	特殊部の断面、管路部の条数は確認済みか（占用企業者）。			
	地下水位の設定は適切か。			
	地盤の液状化判定及び対策の検討がされているか。			
	特殊部の位置は適正か。			
	管路部の土被りは確保されているか。			
使用材料	仮設工法の検討は適正に行われているか。			
	最終計算結果と設計図の寸法、主鉄筋、主鋼材の再照査。			
	数量計算は必要項目（種別）が計上されているか。			
図面表示（起点、終点その他）の有無。				
標準断面図	材質	コンクリート設計基準強度	鉄筋	
		$\sigma_{ck} =$	kgf/cm^2	$S D =$
備考	許容応力度	鉄筋引張り	コンクリート曲げ圧縮	コンクリートせん断
		$\sigma_{sa} =$	kgf/cm^2	$\sigma_{ca} =$
		kgf/cm^2	kgf/cm^2	$\tau_a =$
			kgf/cm^2	kgf/cm^2
各電線管理者の条数及び地下埋設物件について明記する。				

橋 梁 詳 細 設 計 照 査 要 領

平成 1 0 年 5 月

基本条件の照査項目一覧表

(照査 ①)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料	照査	
1	設計の目的、主旨	1) 目的、主旨を理解したか。 2) 地域構想等の関連する上位計画を把握したか。 3) 設計の主な項目、工程について具体的内容を把握したか。				
2	貸与資料	1) 必要な貸与資料があるか。				
3	現地踏査	1) 地形、現地状況（旧河道、用排水路、井戸、現場周辺の土地利用等）を確認したか。 2) 隣接工区との関係を確認したか。 3) 現道状況及び交通状況を把握したか。（家屋連坦、迂回路、道路幅員、ゴミ集積所、交通量、車両規則、通学路、緊急車両の通行の可否等） 4) 周辺構造物との関係を把握したか。（学校、病院、鉄道等） 5) 環境状況（騒音、振動、防塵、日照等の配慮）を把握したか。 6) 埋設物、架空線等（下水管、人孔、ガス、水道、ケーブルetc）の位置、深さ、形状等を把握したか。 7) ボーリング図は適正か。（近接工区との関連性等） 8) 地質状況を把握したか。（季別地下水位、地下水利用状況、被圧の有無） 9) 貸与資料と現地の相違はないか。 10) 法令、条件に関する調査の必要性があるか。 11) 施工時の注意事項は把握したか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
4	設計基本条件	1) 構造形式は適正か（経済性、安全性、施工性、景観性、総合評価等）特に、予備設計成果との整合は図れているか。 2) 橋長、スパン割りは適正か。 3) 道路規格及び橋梁の重要度の区分は適正か。 4) 荷重条件（設計時、施工時）は適正か。 5) 特殊荷重の位置、大きさは確認したか。 6) 施工条件の基本は確認したか（時期、スペース、環境、交通条件、安全性の確保、近接施工、架設工法等） 7) 使用すべき設計基準は把握したか。 8) 暫定計画、将来計画と整合しているか。 9) 塩害に対する検討をしたか。 10) 雪処理の方法を検討したか。 11) 関連する設計と整合がとれているか。 12) 福祉のまちづくり条例と整合がとれているか。				
5	幾何構造、線形条件	1) 幅員構成、幅員変化、平面線形は適正か。 2) 縦断線形は適正か。 3) 座標系と基準点は適正か。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料	照査	
6	橋面工、付属工の基本条件	1) 横断勾配、舗装厚は適正か。 2) 歩道構造は適正か。 3) 地覆、高欄は適正か。 4) 遮音壁は適正か。 5) 照明柱、標識柱は適正か。 6) 排水工は適正か。 7) 伸縮継手は適正か。（ゴム伸縮継手の可能性を確認したか） 8) 検査路は適正か。 9) 支承は適正か。（ゴム支承の可能性を確認したか） 10) 路掛板は適正か。 11) 護岸工は適正か。 12) 適用基準は適正か。 13) 落橋防止システムの選定は適正か。 14) その他付属構造物を設置する必要があるか。				
7	交差条件	1) 河川条件は満足するか。 （基準径間長、障害率、流心方向、桁下余裕、架設工法等） 2) 道路交差条件は満足するか。 （建築限界、桁下余裕、平面線形、桁架設工法等） 3) 鉄道交差条件は満足するか。 （建築限界、桁下余裕、平面線形、桁架設工法、架線処理方法等） 4) 支障物件への対応方法は検討したか。 5) 交差協議に関わる協議資料作成の種類と内容は確認したか。 6) フーチングの根入れは適切か。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
8	地盤条件	1) 土質定数の設定は妥当か。 2) 支持力、地盤バネ値の設定は妥当か。 3) 水位、水圧の評価は妥当か。 4) 構造図と柱状図との位置関係は妥当か。 5) 軟弱地盤として検討する必要性を確認したか。 6) 地盤から決まる許容支持力は妥当か。 7) 支持層が岩の場合の考え方は妥当か。 8) 支持層の設定位置は妥当か。				
9	耐震検討	1) 耐震検討は妥当か。（地盤種別、固有周期、水平震度等） 2) 動的解析の必要性を確認したか。 3) 地震力を分散させる構造系を配慮しているか。				
10	地形条件	1) 用地境界を確認したか。 2) 用地の権利関係を確認したか。 3) 施工ヤード、スペースを確認したか。 4) 資機材運搬路は確保できるか。				
11	使用材料	1) 使用材料と規格（市場性、経済性を含む）、許容応力度は妥当か。 2) 新材料、再生材の適用の検討を行ったか。				
12	環境及び景観検討	1) 環境及び景観検討の必要性、デザインコンセプト、範囲等は理解したか。 2) 環境及び景観検討の検討の具体的方法、作成すべき資料等は決定しているか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－ 1 ）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査①		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	

細部条件の照査項目一覧表 (照査 ②)

件名： _____

発注者名： _____

受託者名： _____

照査の日付： _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料	照査	
1	上部構造	1) 適用基準は正しいか。 2) 支承条件及び地盤条件と橋梁形式は整合しているか。 3) 径間割りは妥当か。 4) 構造骨組は妥当か。 5) 桁配置は妥当か。 6) 構造高は妥当か。 7) P C 鋼材の選定及び配置は妥当か。 8) 桁端部と桁遊間は妥当か。 9) 床板厚、床組は妥当か。 10) 解析手法（適用プログラム、構造モデル）は適切か。 11) 架設法を設計に考慮したか。 （運搬路、部材長、部材重量、架設方法と順序、施工ヤード、施工スペース、架設時の構造系等） 12) 材料使用区分は妥当か。 （鋼材、コンクリート、鉄筋） 13) 構造細目は妥当か。 （鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置等） （断面変化位置、鋼板厚、板幅、材料使用区分、継手部、補鋼材、取付部等） 14) 橋面厚、付属工（検査路等）の計画変更はないか。 15) 支承、落橋防止システム、伸縮装置、防護柵等の設計条件は適切か。 16) 塩害対策は適切か。 17) 防水工は適切か。 18) 塗装系は適切か。 19) 維持管理施設は適切か。（足場用吊ピース、添加物の配置）				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
2	下部構造	1) 適用基準は正しいか。 2) 設計理論と解析手法（適用プログラム、構造モデル）は適切か。 3) 橋台、橋脚の位置・形状は適切か。 4) 支承条件（F、M）は下部工に反映されているか。 5) 縁端距離は確保されているか。 6) 形状、寸法の基本的統一は図られているか。 7) 裏込土、埋戻土の種類と土圧係数は妥当か。 8) 施工法は配慮しているか。 （運搬路、施工法と順序、施工ヤード、施工スペース等） 9) 材料使用区分は妥当か。 10) 構造細目は妥当か。 （鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置等） 11) 橋脚の耐震設計手法は適切か。 12) 地下水の変動は確認したか。				
3	基礎構造	1) 適用基準は正しいか。 2) 設計理論と解析手法（適用プログラム、構造モデル）は妥当か。 3) 土質定数は妥当か。 4) 支持層への根入れは妥当か。 5) 耐震設計上の基盤面、地盤面は適切か。 6) 液状化は問題ないか。 7) 地盤改良の必要性を確認したか。 8) 基礎形式は妥当か。（直接基礎、杭、ケーソン、ウェル等） 9) 形式、寸法は妥当か。（杭であれば、杭種、杭径等） 10) 基礎の耐震設計手法は適切か。 11) 材料使用区分は妥当か。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
4	付属構造物（防護柵、照明、添架物、遮音壁、道路標識、親柱等）	12) 構造細目は妥当か。 （鉄筋かぶり、ピッチ、継手、抗頭処理等） 13) 軟弱地盤の場合、橋台の側方移動、圧密沈下量、杭のネガティブフリクションを考慮しているか。 14) 施工法は配慮しているか。 （運搬路、施工法と順序、施工ヤード等） 15) 埋設物との取合いは問題ないか。 16) 近接施工の問題はないか。				
		1) 適用基準は正しいか。 2) 選定形式、位置、寸法は妥当か。 3) プレキャスト化、二次製品の使用等を配慮しているか。 4) 使用実績はあるか。 5) 維持管理性は配慮したか。 6) 本体との取合いは妥当か。 7) 通信管路及び照明用電源管路は計画されているか。 8) 景観を配慮しているか。 9) 路面排水、床版排水の流末処理は妥当か。				
5	仮設構造物	1) 適用基準は正しいか。 2) 選定形式、位置、寸法は妥当か。（仮橋、土留工、二重締切等） 3) 設計理論と解析手法（適用プログラム、構造モデル）は妥当か。 4) 安全確保が考慮されているか。（安全率等） 5) 経済性が配慮されているか。 6) 支持層への根入れは妥当か。 7) 材料使用区分は妥当か。 8) 埋設物との取合いは問題ないか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当 対象	提示資料 該当ページ	照査	
6	その他	9) 設置、撤去等施工性は配慮しているか。 10) 施工時期（非出水期、出水期等）を考慮して設計されたか。 11) 止水性についての検討がされているか。 12) その他については、仮設構造物編を照査すること。 埋設物、支障物件、周辺施設との近接等、施工条件が設計計画に反映されているか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査②		備考
			該当 対象	提示資料 該当ページ 照査	

成果品の照査項目一覧表 (照査 ③)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料	照査	
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 計算上の仮定値と設計値との差は妥当か。 3) 安定計算結果は許容値を満たすか。 4) 許容応力度の取り方は正しいか。 5) 荷重の組合わせと割増し係数は適当か。 6) 二次応力を計算する必要は無いか。 7) 耐震設計は実施したか。 8) 座屈規定に基づく計算がされているか。 9) 施工を配慮した計算となっているか。 10) 最小鉄筋量及び鉄筋の配置は構造細目と整合しているか。				
2	電算機による構造解析	1) 構造モデルと実際の構造系は合致しているか。 2) 入力データの算出根拠は明記されているか。 3) 出力データの読み取り方法を具体的に説明しているか。 4) 利用したプログラム名とその会社名は明記されているか。				
3	設計図	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 設計委託標準仕様書の設計図作成要領と整合しているか。 3) 一般図には必要項目が記載されているか。（設計条件、地質条件、法線、水位、付属構造物等） 4) 構造物の基本寸法、高さ関係は照合されているか。 5) 構造詳細は、適用基準及び標準構造と整合しているか。 6) 取り合い部の構造寸法は整合しているか。 7) 各設計図がお互いに整合しているか。（一般平面図と縦横断面図、構造図と配筋図、構造図と仮設図 e t c .）				

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
4	数量計算書	<p>8) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 (特に応力計算書、安定計算書等の結果が適用範囲を含めて整合しているか。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁厚 ・鉄筋(径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、かぶり、ガス圧接位置等) ・鋼材形状、寸法 ・使用材料 <p>1) 数量の単位及び数値の取り方は、設計委託標準仕様書の数値基準と整合しているか。</p> <p>2) 数量計算に用いた寸法・数値は図面と整合しているか。</p> <p>3) 数量の取りまとめは、種類毎、材料毎に整理されているか。</p> <p>4) 数量計算の根拠となる資料(根拠図等)は作成されているか。</p> <p>5) 施工を考慮した数量計算となっているか。(コンクリート打設量における後打ち量の分離等)</p> <p>6) 数量総括表が正しく整理されているか。</p>				
5	施工方法の検討	<p>1) 施工時の道路・河川等の切り廻し計画は適切か。</p> <p>2) 工事用道路、運搬路計画は適切か。</p> <p>3) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。</p> <p>4) 部材長、部材寸法、部材重量は適正か。</p> <p>5) 施工法、施工順序、施工工程は適切か。</p> <p>6) 支保工、仮設備(仮設電源、照明、昇降設備等)は適切か。</p> <p>7) 安全性、経済性は適切か。</p> <p>8) 暫定計画、完成計画と整合しているか。</p>				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
6	設計調書	9) 環境対策は適切か。 10) 施工機械の種類、規格は適切か。				
7	報告書	1) 調書の記入は適切か。 2) 相対的に見て問題はないか。(主要寸法、主要数値を他工事の類似例や一般例と比較する。例：m ² 当たりコンクリート量、m ³ 当たり鉄筋量の比較)				
8	成果品	1) 打合わせ事項は反映されているか。 2) 条件設定の考え方が適切か。 3) 比較検討の結果が整理されているか。 4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。 5) 基準等の引用には出典図書及びページが明記されているか。				
9	TECRIS	1) TECRISの登録は行ったか。				

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査③		備考
			該当提示資料 対象該当ページ	照査	

橋 梁 設 計 調 書

業 務 名		事 務 所 名		一般形状図			
橋 梁 名		受 注 者 名					
路 線 名		主 任 技 術 者		照査技術者			
所 在 地		作 成 年 月 日		年 月 日			
施 工 箇 所		起 点 側		終 点 側			
道 路 規 格		道 路 規 格		種 級			
道 路 交 通 量		年度 台/12h		計 画 交 通 量 台/24h (大型車一方向 台)			
道 路 設 計 速 度		km/h		平 面 線 形			
道 路 縦 断 勾 配		縦 断 勾 配		横 断 勾 配			
橋 長		m		設 計 活 荷 重 B活荷重、 A活荷重、 群衆荷重			
橋 面 積		m ²		特 殊 荷 重			
幅 員 構 成		設 計 震 度		Kh =			
斜 角		地 盤 種 別					
適 用 示 方 書		上 部 工		塩 害 対 策			
		下 部 工		添 加 物 W E T G kg /m			
		そ の 他		踏 掛 版 有 (m) 、 無			
構 造 形 式		上 部 工		舗 装 厚 車 道 舗 装、 cm 厚			
		下 部 工		舗 装 厚 歩 道 舗 装、 cm 厚			
		基 礎 工		比 較 予 備 設 計 年 度 済、 無			
耐 震 設 計 法		静 的 解 析、 動 的 解 析 (法)		地 質 調 査 年 度 済、 無			
耐 震 性 重 要 度		A 種 、 B 種		設 計 地 震 力 (保 有 耐 力 法) タイプ I 、 タイプ II			
支 承 部 構 造		タイプ A 、 タイプ B		落 橋 防 止 シ ス テ ム			
交 差 部 件		河 川 名		級 河 川 川 (川 水 系)			
		河 川 管 理 者		河 川 改 修 計 画			
		計 画 高 水 流 量		m ³ /sec		計 画 高 水 位	
		基 準 径 間 長		m		計 画 河 床 高 m	
		河 積 阻 害 率		%		計 画 高 水 位 幅 m	
		護 岸 工		左 岸		右 岸	
		交 差 種 別		道 路		鉄 道	
		交 差 路 線 等 名				航 路	
		交 差 桁 下 余 裕 高		m		m	
		交 差 側 方 余 裕 高		m		m	
				特記事項等			

鋼橋設計調書 [P ~ P]

〔記載例〕

(/)

橋梁名	橋 (P ~ P)		路線名		平面線形		斜角		幅員	総幅員	$\Sigma w =$ m	設計	橋軸方向	kh =				
構造形式			橋長	L = m	支間割				有効幅員	w = m	震度	直角方向	Kh =					
主桁	主桁数	本	桁高	m		撓み	死荷重	mm		断面図・一般図								
	主桁間隔	m	桁高比	H/L=1/			活荷重	mm(1/)										
横桁	横桁数	本	横桁間隔	m		横桁高	m											
床版 中間部 の設計	床版の種類		床版厚			床版厚	K ₁ =											
	設計基準強度		$\sigma_{CK} =$ kgf/cm ²	鉄筋			係数	K ₂ =										
	曲げモーメント		主鉄筋応力度		As = cm ² , dφ = , etc =													
主桁 の 設計	設計理論名																	
	主桁の架設方法																	
			支間中央		中間支点		側径間中央 Max											
			外桁 (G)	内桁 (G)	外桁 (G)	内桁 (G)	外桁 (G)	内桁 (G)										
	曲げ モーメント (tf・m)	前死荷重																
		後死荷重																
		活荷重																
		合計																
	せん弾力 (t f)																	
	断面	U-Flg								伸縮継手	使用箇所	種類	遊間					
Web																		
L-Flg																		
応力度 (kgf/cm ²) ()は許容値	コンクリート								主要材料	鋼重	総鋼重	主構鋼重		t				
	U-Flg										SM520	t (%)	SM490	t (%)				
	L-Flg									材質比	SS400	t (%)	その他	t (%)				
	τ									塗装面積	工場塗装面積	m ² (m ² /t)						
応力度報告書頁											現場塗装面積	m ² (m ² /t)						
反力及び 支承	反力		G 1	G 2	G 3	G 4	G 5		床版	コンクリート	m ³ (m ³ /m ²)							
	死荷重反力 Rd									鉄筋	t (t/m ³)							
	端 支 点	活荷重反力 Rl							特記事項									
		合計反力 R																
		使用支承反力																
		支承の種類	可動															
			固定															
	中 間 支 点	反力		G 1	G 2	G 3	G 4	G 5										
		死荷重反力 Rd																
		活荷重反力 Rl																
合計反力 R																		
使用支承反力																		
支承の種類	可動																	
	固定																	

P C T桁橋設計調査 [P ~ P]

〔記載例〕

(/)

橋梁名		橋 (P ~ P)		路線名		平面線形		斜角		幅員		Σw= m		設計		橋軸方向		kh=				
構造形式		橋長		L= m		支間割				有効幅員		w= m		震度		直角方向		Kh=				
主桁	主桁数		本		桁高		m		最大撓み		δ= mm(1/)		断面		図		一般		図			
	主桁間隔		m		桁高比		H/L=1/															
横桁	横桁数		本		横桁間隔		m		横桁厚さ		m		断面		図		一般		図			
	床版の種類		床版		PC鋼材の種類		横締間隔		mm													
床版	設計基準強度		σ _{Ck} =		kgf/cm ²		割増係数		K=				断面		図		一般		図			
	曲げモーメント		床版厚		合成応力度 (kgf/cm ²)		許容応力度 (kgf/cm ²)															
張出部の設計	張出部		tf・m/m		mm		上縁		下縁				断面		図		一般		図			
	支間中央		tf・m/m		mm		上縁		下縁													
	中間支点		tf・m/m		mm		上縁		下縁													
主桁の設計	設計理論名				定着工法				PC鋼材の種類				断面		図		一般		図			
	主桁の架設方法																					
設計	設計断面		曲げモーメント (tf・m)		位置		合成応力度 (kgf/cm ²)		許容応力度 (kgf/cm ²)				断面		図		一般		図			
							プレストレス導入直後		設計荷重時		プレストレス導入直後										設計荷重時	
設計	側径間 (または単純桁) 中央				上縁								断面		図		一般		図			
	中間支点				上縁																	
設計	中央径間中央				上縁								断面		図		一般		図			
					下縁																	
設計	せん断検討位置		設計荷重時		せんだん力		終局荷重時		せんだん力		斜引張応力度		スターラップ		断面		図		一般		図	
	端支点位置				tf				tf													
設計	中間支点位置				tf				tf						断面		図		一般		図	
	破壊抵抗曲げモーメント (kgf/cm ²)				終局荷重作用時		曲げモーメント (kgf/cm ²)															
反力及び支承	端支点	反力		G 1		G 2		G 3		G 4		G 5		断面		図		一般		図		
		死荷重反力 Rd																				
反力及び支承	端支点	活荷重反力 Rl												断面		図		一般		図		
		合計反力 R																				
反力及び支承	端支点	使用支承反力												断面		図		一般		図		
		支承の種類		可動																		
反力及び支承	端支点	支承の種類		固定										断面		図		一般		図		
反力及び支承	中間支点	反力		G 1		G 2		G 3		G 4		G 5		断面		図		一般		図		
		死荷重反力 Rd																				
反力及び支承	中間支点	活荷重反力 Rl												断面		図		一般		図		
		合計反力 R																				
反力及び支承	中間支点	使用支承反力												断面		図		一般		図		
		支承の種類		可動																		
反力及び支承	中間支点	支承の種類		固定										断面		図		一般		図		
主要材料		項目		単位		仕様		数量		コンクリート1m ³ 当たり数量		断面		図		一般		図				
コンクリート		m ³																				
主要材料		型枠		m ²								断面		図		一般		図				
		外型枠																				
主要材料		鉄筋		t								断面		図		一般		図				
		P		主方向		t																
主要材料		鋼材		t								断面		図		一般		図				
		C		横方向		t																
主要材料		鋼材		t								断面		図		一般		図				
		合計		t																		
PC鋼材最大応力度				kgf/mm ² < σ _{pa} =								断面		図		一般		図				
水平力伝達方法																						
特記事項												断面		図		一般		図				

PC中空床版橋設計 [P ~ P]

〔記載例〕

(/)

橋梁名		橋 (P ~ P)		路線名		平面線形		斜角		幅員	総幅員	$\Sigma w =$ m	設計	橋軸方向	kh =					
構造形式				橋長	L = m	支間割					有効幅員	w = m	震度	直角方向	Kh =					
主版	ボイド数	本		桁高	m		最大撓み	$\delta =$ mm(1/)		断面図・一般図										
	ボイド間隔	dφ = , ctc = m		桁高比			主版巾	m												
横桁	横桁数	本		横桁間隔	m		横桁厚さ	m												
床版張出部の設計	床版厚	mm		設計基準強度	$\sigma_{Ck} =$ kgf/cm ²		割増係数	K =												
	断面力 (tf・m/m)		主鉄筋		応力度		許容応力度		配力鉄筋											
	張出部				$\sigma_c =$		$\sigma_{ca} =$													
					$\sigma_a =$		$\sigma_{aa} =$													
主版の設計	設計理論名			定着工法			PC鋼材の種類													
	主桁の架設方法																			
	設計断面	曲げモーメント (tf・m)		位置	合成応力度 (kgf/cm ²)			許容応力度 (kgf/cm ²)			伸縮継手	使用箇所	種類	遊間						
					プレストレス導入直後	設計荷重時	プレストレス導入直後	設計荷重時												
	側径間 (または単純橋) 中央			上縁																
				下縁																
	中間支点			上縁																
				下縁																
	中央径間中央			上縁																
				下縁																
せん断検討位置		設計荷重時せんだん力		終局荷重時せんだん力		斜引張応力度		スターラップ		主要材料	項目	単位	仕様	数量	コンクリート1m ³ 当たり数量					
端支点位置		tf		tf							コンクリート	m ³								
中間支点位置		tf		tf							型枠									
											外型枠	m ²								
										内型枠	m ²									
										鉄筋	t									
										P	主方向	t								
										C	横方向	t								
										鋼材	鉛直方向	t								
										合計	t									
											PC鋼材最大応力度 kgf/mm ² < $\sigma_{pa} =$									
支点上軸直角方向の設計	端支点	曲げモーメント		せん断力	有効巾	鉄筋量		応力度				水平力伝達方法								
		M _A 正				A-	D	x	σ_a	許容値	σ_c	許容値	τ	許容値	反力	P	P	P	P	P
	M _C 負				A-	D	x							死荷重反力						
	中間支点	M _A 正				A-	D	x							活荷重反力					
		M _C 負				A-	D	x							合計反力					
															使用支承反力					
														支承の種類	可動					
														固定						
											特記事項									

RC 中空床版橋設計 [P ~ P]

〔記載例〕

(/)

橋梁名		橋 (P ~ P)			路線名		平面線形		斜角		幅員	総幅員	$\Sigma w =$ m	設計	橋軸方向	kh =
構造形式					橋長	L = m	支間割					有効幅員	w = m	震度	直角方向	Kh =
主版	ボイド数	本			桁高	m			最大撓み	$\sigma =$ mm(1/)						
	ボイド間隔	dφ = , ctc = m			桁高比	H/L = 1/			主版巾	m						
横桁	横桁数	本			横桁間隔	m			横桁厚さ	m						
床版張出部の設計	床版厚		mm		設計基準強度		$\sigma_{Ck} =$ kgf/cm ²		割増係数		K =					
	断面力 (tf・m/m)				主鉄筋		応力度		許容応力度		配力鉄筋					
	張出部						$\sigma_c =$		$\sigma_{ca} =$							
							$\sigma_a =$		$\sigma_{aa} =$							
主版の設計	設計理論名															
	主桁の架設方法															
	断面力				配筋				応力度				許容応力度			
	支面	ト	死荷重	tf・m			スターラップ°	σ_c		σ_{ca}						
			活荷重	tf・m				σ_a		σ_{aa}						
			合計	tf・m												
	せん断力		tf				τ_c		τ_{ca}							
	中間支点	ト	死荷重	tf・m			スターラップ°	σ_c		σ_{ca}						
			活荷重	tf・m				σ_a		σ_{aa}						
			合計	tf・m												
せん断力		tf				τ_c		τ_{ca}								
支点上軸直角方向の設計	曲げモーメント		せん断力		有効巾		鉄筋量		応力度							
									σ_a 許容値		σ_c 許容値		τ 許容値			
	端支点	MA 正					A- D X									
		MC 負					A- D X									
	中間支点	MA 正					A- D X									
		MC 負					A- D X									
	反力及び支承															
	反力															
死荷重反力 R_d																
活荷重反力 R_l																
合計反力 R																
使用支承反力																
支承の種類																
可動																
固定																
特記事項																

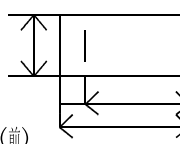
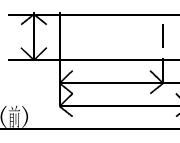
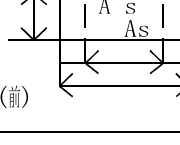
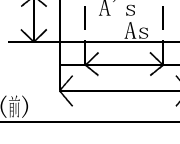
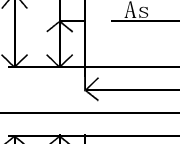
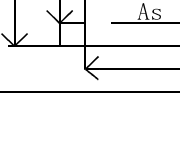
下部工設計調書 総括表

〔記載例〕

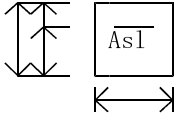
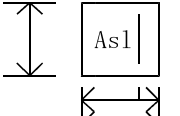
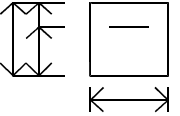
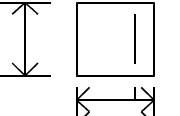
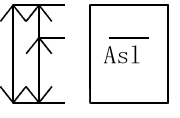
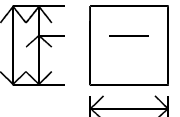
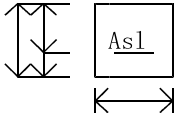
(/)

上部工形式		橋長	m	斜角	幅員	適用示方書	震度補正係数	橋梁名		固有周期別Cr	備考
								地域別Cz	重要度別C1		
設計 条件	下部工 No.										
	下部工形式										
	橋座幅	S(cm)	>	>	>	>	>	>	>		
		S E (cm)	>	>	>	>	>	>	>		
	支承形式 (Fix, Mov, H)		()	()	()	()	()	()	()		
	基礎形式										
	地盤種別 (Cg)		種 ()	種 ()	種 ()	種 ()	種 ()	種 ()	種 ()		
	設計水平震度	橋軸方向									
		直角方向									
	液状化の判定		有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無		
	上部 工反 力	鉛直力 (tf)	常時								
			地震時								
		地震時水平反力 (tf)	橋軸方向								
			直角方向								
	背面土 (橋台)	r (tf/m ³)									
φ (°)											
Kh											
躯体の保有水平耐力 Pa/P	橋軸方向										
	直角方向										
安定 計算	直接基礎	常時	決定ケース								
			支持力	<	<	<	<	<	<	<	
			転倒	>	>	>	>	>	>	>	
			滑動	>	>	>	>	>	>	>	
	地震時	決定ケース									
		支持力	<	<	<	<	<	<	<	<	
		転倒	>	>	>	>	>	>	>		
		滑動	>	>	>	>	>	>	>		
	杭基礎	常時	決定ケース								
			杭反力	<	<	<	<	<	<	<	
			杭頭変位	<	<	<	<	<	<	<	
			決定ケース								
地震時	杭反力	<	<	<	<	<	<	<			
	杭頭変位	<	<	<	<	<	<	<			
材 料	鉄筋材質		SD	SD	SD	SD	SD	SD			
	コンクリート強度 σck		kgf/cm ²	kgf/cm ²	kgf/cm ²	kgf/cm ²	kgf/cm ²	kgf/cm ²	kgf/cm ²		
	コンクリート体積 Q (m ³)										
	鉄筋重量 R(t) (R/Q)		()	()	()	()	()	()	()		
	型枠面積 A(m ²) (A/Q)		()	()	()	()	()	()	()		
	杭種										
杭径×抗長×本数		m×m×本	m×m×本	m×m×本	m×m×本	m×m×本	m×m×本	m×m×本			

下部工設計調書 橋台 () [記載例] (/)

下部工 No.		橋梁名		部材・部位		荷重状態	作用力	断面配筋	応力度(kgf/cm ²)		備考
概 要 図	土圧係数	常時 地震時	寸法図	断面	パラペット① (主筋全面)		M(tf・m) S(tf)	 $0.002bd \leq A_s$ $0.02bd \geq A_s$ $A_s = \text{cm}^2$ (前) (後) D - ct c	σ_c	<	踏掛板 有・無
									σ_s	<	
	パラペット② (主筋背面)				M(tf・m) S(tf)	 $0.002bd \leq A_s$ $0.02bd \geq A_s$ $A_s = \text{cm}^2$ (前) (後) D - ct c	σ_c	<			
							σ_s	<			
	たて壁③ (変化断面)				M(tf・m) N(tf) S(tf)	 $0.0015A' < A_s$ $0.008A' < A_s$ $A' s = \text{cm}^2$ D - ct c As = cm ² (前) (後) D - ct c	σ_c	<	τ < 2/3 τ a		
							σ_s	<			
							τ	<			
	たて壁④ (付根)				M(tf・m) N(tf) S(tf)	 $0.0015A' < A_s$ $0.008A' < A_s$ $A' s = \text{cm}^2$ D - ct c As = cm ² (前) (後) D - ct c	σ_c	<			
							σ_s	<			
							τ	<			
	フーチング⑤ (後趾)				M(tf・m) S(tf)	 $0.002bd \leq A_s$ $0.02bd \geq A_s$ $A_s = \text{cm}^2$ D - ct c	σ_c	<			
							σ_s	<			
	フーチング⑥ (前趾)				M(tf・m) S(tf)	 $0.002bd \leq A_s$ $0.02bd \geq A_s$ $A_s = \text{cm}^2$ D - ct c	σ_c	<			
							σ_s	<			
	ウィング				M(tf・m) S(tf)	$0.002bd \leq A_s$ $0.02bd \geq A_s$ $A_s = \text{cm}^2$ D - 本 ct c	σ_c	<			
							σ_s	<			
踏掛板		M(tf・m) S(tf)		σ_c	<						
				σ_s	<						
						τ	<				

下部工設計調書 橋脚 () [記載例] (/)

下部工No.		断面応力度 (kgf/cm ²)																			
概 要 図		梁 (付根)						梁 (せん断照査)													
正 面 図		荷重方向・状態		鉛直・常時		荷重方向・状態		水平・地震時		荷重方向・状態		鉛直・常時		荷重方向・状態		水平・地震時					
		作用力 M=		tf・m		作用力 M=		tf・m		作用力 S=		tf		作用力 S=		tf					
		σ_c		σ_{ca}		σ_c		σ_{ca}		τ_m		$\alpha \tau_{al}$		τ_m		$\alpha \tau_{al}$					
		σ_s		σ_{sa}		σ_s		σ_{sa}		所要斜引張鉄筋				所要斜引張鉄筋							
		0.002bd ≤ Asl ≤ 0.02bd						0.002bd ≤ Asl ≤ 0.02bd						D 一本、 ctc				D 一本、 ctc			
		 Asl = cm ² D - 本						 Asl = cm ² D - 本													
		柱 (壁) 付根						フーチング (付根)													
		荷重方向・状態		橋軸・地震時		荷重方向・状態		直角・地震時		荷重方向・状態		橋軸・		荷重方向・状態		直角・					
		作用力 M=		tf・m N=		作用力 M=		tf・m N=		作用力 M=		tf・m		作用力 M=		tf・m					
		S=		tf		S=		tf		σ_c		σ_{ca}		σ_c		σ_{ca}					
	σ_s		σ_{sa}		σ_s		σ_{sa}		σ_s		σ_{sa}		σ_s		σ_{sa}						
	τ_m		$\alpha \tau_{al}$		τ_m		$\alpha \tau_{al}$		0.002bd ≤ Asl ≤ 0.02bd												
	所要斜引張鉄筋						所要斜引張鉄筋						 Asl = cm ² D - ctc								
	D 一本、 ctc						D 一本、 ctc						Pw= % > %								
	0.0015A (0.008A') ≤ As ≤ 0.06A						0.0015A (0.008A') ≤ As ≤ 0.06A						主鉄筋								
	Pw= % > %						Pw= % > %						As=								
	主鉄筋						主鉄筋						帯鉄筋								
	As=						As=						dφ= , ctc=								
	帯鉄筋						帯鉄筋						dφ= , ctc=								
	dφ= , ctc=						dφ= , ctc=														
側 面 図	フーチング (付根)						フーチング (せん断照査)														
	荷重方向・状態		橋軸・地震時		荷重方向・状態		直角・地震時		荷重方向・状態		橋軸・地震時		荷重方向・状態		直角・地震時						
	作用力 M=		tf・m		作用力 M=		tf・m		作用力 S=		tf		作用力 S=		tf						
	σ_c		σ_{ca}		σ_c		σ_{ca}		τ_m		$\alpha \tau_{al}$		τ_m		$\alpha \tau_{al}$						
	σ_s		σ_{sa}		σ_s		σ_{sa}		0.002bd ≤ Asl ≤ 0.02bd												
	0.002bd ≤ Asl ≤ 0.02bd						0.002bd ≤ Asl ≤ 0.02bd														
 Asl = cm ² D - ctc																					

基礎工設計調書

杭基礎

[記載例]

(/)

		橋梁名						
下部工No.								
設計 条件	杭種							
	打設工法							
	中掘先端処理							
	杭径 mm							
	杭長 m							
	杭本数							
	杭頭結合方式	A法 ・ B法	A法 ・ B法	A法 ・ B法	A法 ・ B法	A法 ・ B法	A法 ・ B法	
	液状化の低減係数 D_E	0・1/3・2/3・1	0・1/3・2/3・1	0・1/3・2/3・1	0・1/3・2/3・1	0・1/3・2/3・1	0・1/3・2/3・1	
	液状化の区間長 m (軟弱粘性土層)							
	水平地盤反力係数 K_H (1/ β 区間、常時、地震時)							
所要杭本数決定要因	支持・変位・応力	支持・変位・応力	支持・変位・応力	支持・変位・応力	支持・変位・応力	支持・変位・応力		
断面 力	決定ケース							
	曲げモーメント tm							
	鉛直力 t Nmax, Nmin							
	水平力 t							
応 力 度	σ_c, σ_{ca} kgf/cm ²	<	<	<	<	<	<	
	σ_t, σ_{ta} kgf/cm ²	<	<	<	<	<	<	
	τ, τ_a kgf/cm ²	<	<	<	<	<	<	
結 果			M0					
			Mm					
			M1/2					
			L1/2					
			Lmin					
			L1					
			L2					
			L3					
			D1 or t1					
			D2 or t2					
			D3 or t3					
			Amin					
	注)D1~D3は場所打ち杭の配筋 t1~t3は鋼管肉厚、PHC杭は種別を記入							
特記事項								

河川詳細設計照査要領

平成10年5月

基本条件の照査項目一覧表

(照査 ①)

件 名： _____

発注者名： _____

受託者名： _____

照査の日付： 平成 年 月 日 _____

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	設計の目的、設計範囲	1) 目的、設計範囲を理解したか。				
2	設計区間、工事時期	1) 設計区間は確認したか。 2) 工事時期は確認したか。				
3	河道条件	1) 計画高さ（堤防、高水位、高水敷、河床）は適正か。 2) 法線（堤防、低水路）は適正か。 3) 座標と基準点は適正か。				
4	現地踏査	1) 地形、現地状況（旧河道、用排水路、井戸、現場周辺の土地利用等）を確認したか。 2) 隣接工区との関係を確認したか。 3) 現道状況及び交通状況を把握したか。（家屋連坦、迂回路、道路幅員、ゴミ集積所、交通量、車両規制、通学路、緊急車両の通行の可否等） 4) 周辺構造物との関係を把握したか。（学校、病院、鉄道等） 5) 環境状況（騒音、振動、防塵、日照等の配慮）を把握したか。 6) 埋設物、架空線等（下水管、人孔、ガス、水道、ケーブル等）の位置、深さ、形状等を把握したか。 7) ボーリング図は適正か。（近接工区との関連性等） 8) 地質状況を把握したか。（季別地下水位、地下水利用状況、被圧の有無） 9) 貸与資料と現地の相違はないか。 10) 法令、条件に関する調査の必要性があるか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
5	設計基本条件	1) 築堤の計画断面及び施工断面は妥当か。 2) 護岸形式は適正か。 3) 護岸基礎形式は適正か。 4) 考慮すべき特殊条件は確認したか。 (水衝部、旧川跡、漏水部、軟弱地盤、耐震設計対象区域、環境条件等) 5) 適用基準は明確になっているか。 6) 縮切水位は適正か。 7) 瀬替、水替時流量は確認したか。 8) 坂路、階段位置、側帯等は適正か。 9) 多自然型、新工法等は環境に適合しているか。 又、河川特性等を考慮したか。 10) 用排水系統は適正か。 11) 暫定施工等について検討するのか。 12) 移設施設の処理は適正か。 13) 現況河川区域は確認したか。 14) 関連する設計と整合はとれているか。 15) 付帯施設を把握しているか。 16) 福祉のまちづくり条例と整合はとれているか。				
6	地盤条件	1) 土質定数の設定は妥当か。 2) 地下水位の設定は妥当か。 3) 追加調査の必要はないか。 4) 軟弱地盤かどうかの調査は必要か。 5) 軟弱地盤として検討する条件を確認したか。 (圧密沈下、液状化、地盤支持力、法面安定、側方移動等)				
7	耐震検討	1) 耐震設計の考え方は妥当か。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
8	使用材料	1) 使用材料と規格(市場性、経済性を含む)、許容応力度は妥当か。 2) 新材料、再生材の適用の検討を行ったか。				
9	地形条件	1) 用地境界を確認したか。 2) 用地の権利関係を確認したか。 3) 施工ヤード、スペースを確認したか。				
10	施工条件	1) 運搬路、切廻し河道、ヤード確保を確認したか。 2) 全体工程を理解したか。 3) 施工工区割は妥当か。 4) 段階施工等の条件はあるか。 5) 周辺の土地利用条件を確認したか。				
11	関連機関との調整	1) 他の工作物管理者との調整内容を理解したか。 2) 地権者及び地元等の調整内容を理解したか。 3) 占用者との調整内容を理解したか。				
12	貸与資料	1) 必要な貸与資料があるか。				
13	環境及び景観検討	1) 環境及び景観検討の必要性、デザインコンセプト、範囲等は理解したか。 2) 環境及び景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は決定しているか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査①		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	

細部条件の照査項目一覧表 (照査②)

件名：_____

発注者名：_____

受託者名：_____

照査の日付： 平成 年 月 日 _____

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料該当ページ	照査	
1	一般図	1) 全体平面図（法線、取付等）は適切か。 2) 縦横断面図は適切か。 3) 標準断面図は適切か。 4) 様式－１の設計基本条件との整合が図られているか。				
2	堤体	1) 堤防断面（計画断面、施工断面等）は妥当か。 2) 盛土端部のすりつけは妥当か。 3) 特殊条件を考慮しているか。 4) 不良土除去を考慮しているか。 5) 既設構造物（既設護岸等）の対応方法は妥当か。 6) 築堤材料区分は妥当か。 7) 特殊条件を考慮しているか。				
3	環境への配慮	1) 環境条件は十分満足しているか。 2) 環境への適合性は妥当か。				
4	法覆工	1) 基礎工は適正か。 2) 帯工及び目地の形状・配置は妥当か。 3) 排水工は妥当か。 4) 材料使用区分（プレキャスト・場所打ちの使用区分・部材の重量、厚み、配筋等）は妥当か。				
5	矢板護岸	1) 検討ケースの設定は妥当か。 2) 矢板の型式は妥当か。 3) コーピングの大きさは妥当か。 4) 継手効率は妥当か。 5) 腐食による低減率は妥当か。 6) 許容値、計算方法は正しいか。 7) 洗掘深は妥当か。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
6	コンクリート擁壁 (コンクリート護岸、 ブロック積)	8) 施工方法を配慮しているか。 9) 解析手法(適用プログラム、構造モデル)は妥当か。 10) 土圧及び水圧の考え方は妥当か(荷重図)。 11) 変位の状況は妥当か、また矢板最小根入れ長は妥当か。 12) 特殊条件を考慮しているか。 13) 控え式の場合の控え形式・位置は妥当か。 14) 材料使用区分は妥当か。 1) 最小部材厚は妥当か。 2) 裏込土、埋戻土の種類と土圧及び水圧の考え方は妥当か。 3) 適用基準は正しいか。 4) 洗掘深は妥当か。 5) 根入深さは妥当か。 6) 特殊条件を考慮しているか。 7) 施工方法を配慮しているか。 8) 材料使用区分(プレキャスト材等)は妥当か。 9) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、段落し・・・)				
7	基礎工	1) 基礎形式は妥当か。 2) 形式寸法は妥当か。 (杭の場合、杭種、杭径等) 3) 適用基準は正しいか。 4) 支持層への根入れは妥当か、又支持層選定は妥当か。 5) ネガティブフリクションの照査を行っているか。 6) 特殊条件を考慮しているか。 7) 施工方法は環境面を考慮して選定しているか。 8) 材料使用区分は妥当か。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
8	河床構造物 (根固工、水制工、床 止工、護床工、落差 工、魚道等)	9) 構造細目は妥当か。 (杭頭処理、継手・・・) 1) 施工延長及び施工断面は妥当か。 2) 洗掘深、設計河床高との整合は妥当か。 3) 環境・生態への配慮はしているか。 4) 材料使用区分は妥当か。				
9	用排水路工	1) 堤防定規断面を侵していないか。(2Hルール) 2) 水路の流下能力は妥当か。 3) 法尻処理としての構造は妥当か。 4) 河川法上の取扱いは検討したか。				
10	坂路工、階段工	1) 位置は妥当か。 2) 形式、形状寸法は妥当か。 3) 堤防定規断面との関係は妥当か。				
11	施工計画	1) 施工手順は妥当か。 2) 仮締切工の構造及び高さは妥当か。 3) 地下水対策は妥当か。 4) 水路切廻しの安全性は妥当か。 5) 工事用道路の経路は妥当か。 6) 掘削の法面形状は妥当か。 7) 環境対策(騒音、振動等)は妥当か。				
12	軟弱地盤対策工	1) 対策工の目的及び工法は妥当か。 2) 対策工の効果の判定及び範囲は妥当か。 3) 安定計算、沈下量、液状化検討は妥当か。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
13	環境への配慮 (多自然型工法)	1) 多自然型工法の取入れは適性か。 2) 周囲の環境と整合しているか。 3) 近隣(地域)住民の要望等を考慮しているか。				
14	その他施設 (河川構造物)	1) 管理用道路、柵等の検討はしているか。 2) 構造は適用基準に基づいているか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査②		備考
			該当提示資料 対象	該当ページ 照査	

成果品の照査項目一覧表 (照査 ③)

件 名： _____

発注者名： _____

受託者名： _____

照査の日付： 平成 年 月 日 _____

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 安定計算結果は許容値を満たしているか。 ・安全率 ・変位量 ・許容応力度 ・根入れ長さ 3) 許容値の取り方は正しいか。 4) 荷重図、モーメント図が描かれているか。 5) 施工を配慮した計算となっているか。				
2	電算機による構造解析	1) 構造モデルと実際の構造系は合致しているか。 2) 入力データの算出根拠は明記されているか。 3) 出力データの読み取り方法を具体的に説明しているか。 4) 利用したプログラム名とその会社名は明記されているか。				
3	設計図	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 設計委託標準仕様書の設計図作成要領と整合しているか。 3) 一般図には必要項目が記載されているか。（設計条件、地質条件、法線、水位、付属構造物等） 4) 構造物の基本寸法、高さ関係は照合されているか。 5) 構造詳細は、適用基準及び標準構造と整合しているか。 6) 取り合い部の構造寸法は整合しているか。 7) 各設計図がお互いに整合しているか。（一般平面図と縦横断図、構造図と配筋図、構造図と仮設図 e t c . ） 8) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 （特に応力計算書、安定計算書等の結果が適用範囲を含めて整合しているか。）				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
4	数量計算書	<ul style="list-style-type: none"> ・壁厚 ・鉄筋(径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、かぶり、ガス圧接位置等) ・鋼材形状、寸法 ・使用材料 <ol style="list-style-type: none"> 1) 数量の単位及び数値の取り方は、設計委託標準仕様書の数値基準と整合しているか。 2) 数量計算に用いた寸法・数値は図面と整合しているか。 3) 数量の取りまとめは、種類毎、材料毎等に整理されているか。 4) 数量計算の根拠となる資料(根拠図等)は作成されているか。 5) 施工を考慮した数量計算となっているか。(コンクリート打設量における後打ち量の分離等) 6) 数量総括表が正しく整理されているか。 				
5	施工方法の検討	<ol style="list-style-type: none"> 1) 施工時の道路・河川等の切り廻し計画は適切か。 2) 工事用道路、運搬路計画は適切か。 3) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。 4) 部材長、部材寸法、部材重量は適正か。 5) 施工法、施工順序、施工工程は適切か。 6) 支保工、仮設備(仮設電源、照明、昇降設備等)は適切か。 7) 安全性、経済性は適切か。 8) 暫定計画、完成計画と整合しているか。 9) 環境対策は適切か。 10) 施工機械の種類、規格は適切か。 				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
6	設計調書	1) 調書の記入は適正か。 2) 相対的に見て問題ないか。(主要寸法、主要数値を他工事の類似例や一般例と比較する。例：m ² 当たりコンクリート量、m ³ 当たり鉄筋量の比較)				
7	報告書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 条件設定の考え方が適切か。 3) 比較検討の結果が整理されているか。 4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。 5) 基準等の引用には出典図書及びページが明記されているか。				
8	成果品	1) 成果品は、設計委託標準仕様書の成果品一覧表と整合しているか。				
9	TECRIS	1) TECRISの登録は行ったか。				

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査③		備考
			該当提示資料 対象	該当ページ 照査	

護岸設計調書 (/)

件名	
河川名	
箇所名	
発注者名	
受託者名	
照査技術者	
主任技術者	
作成年月日	平成 年 月 日

1) 基本事項

全体平面図及び標準横断面図

護岸設計調書 (/)

河道計画諸元	河川名	() 級河川 川			町	地先
	工事箇所 (設置位置)	都川	岸 km	区市郡 km		
	計画高水流量	Q = (‰/s)				
	堤防勾配	I = 1/	平均流速	V =	(m/s)	
	高水勾配	I = 1/	川幅	B =	(m)	
	高水敷勾配	I = 1/	低水路幅	B =	(m)	
設計方針	河床勾配	I = 1/	高水敷幅	B =	(m)	
	河道特性	計画地点の特徴：				
	法線の考え方	全体計画との整合、現況河道との関係、上下流の法線との関係について特に留意した事項：				
	周辺環境との調和の考え方	周辺環境との調和について特に留意した事項：				
	築堤の考え方 (特に設計に留意した事項を記述)	計画断面				
		施工断面				
		余盛の考え方				
		基礎処理				
		漏水対策				
	築堤の目的	対象の築堤は 1) 本堤防 2) 囲繞堤 3) 仕切堤 4) 導流堤 5) 脊割堤 6) 高潮堤 7) 湖岸堤 8) 越流堤 9) その他 () である。				
築堤盛土形状	築堤盛土形状は 1) 前腹付 2) 後腹付 3) 全体高上 4) 新規 である。					
築堤形式	築堤形式は ①コングリート護岸 ②鋼矢板護岸 ③ブロック積護岸 ④パラペット堤 ⑤三面張 ⑥スローパー堤防 ⑦テラス根固め ⑧その他 である。					

護岸設計調書 (/)

護岸工の考え方 (特に設計に留意した事項を記述)	低水路法線の考え方	
	強度および耐久性	
	護岸の高さの考え方	
	工法選択の考え方	法 覆 工 基 礎 工 根 固 工
護岸の目的	護岸の目的は 1) 流路固定 2) 水衝部強化 3) 側方侵食防止 4) 波浪・飛沫対策 5) その他 ()	である。
護岸設置位置	護岸設置位置は 1) 低水 2) 高水 3) 裏法 4) その他 ()	である。
護岸形式	法覆形式は 1) 練ブロック張 2) 空(連節)ブロック張 3) 練積ブロック張 4) 蛇籠・ふとん籠張 5) プレキヤスト法枠 6) 場所打ちコンクリート法枠 7) その他 ()	である。 擁壁形式は 8) 自立式鋼矢板 9) 控え式鋼矢板 10) ブロック積擁壁 11) もたれ式擁壁 12) コンクリート重力式擁壁 13) 鉄筋コンクリート擁壁 14) 柵式 15) その他 ()
施工時の配慮	築 堤	段切り施工
	護 岸	締め固め厚 湧水対策
	仮 設 の 考 え 方	工事用道路 資材ヤード 山留め工 形式:
		幅 = (m) 勾配 % (有) (m2) (無)
仮 締 切 の 考 え 方 施 工 期 間 設 計 水 位 構 造		

設 計 方 針

護岸設計調書 (/)

荷重条件等	上載荷重	
	单位体積重量	
基礎地盤条件	支持地盤	
	基礎諸定数	
使用材料及び 許容応力度		
	盛土材	
	護岸工	
	コンクリート	
	鉄筋	
	鋼矢板	
	鋼材	
設計条件		

護岸設計調書 (/)

※ 記載例 (1 / 3 ~ 3 / 3) を参考に、必要部分を作成する。

設計諸元

(追加記入表)

項目	細別	設計値	基準値	備考
荷重図				

築堤護岸設計調書記載例（1 / 3）

1) 築堤

項目	細別	設計値	基準値 (例)	備考
高さ	築堤高	m	1 m以下 (0.8 m程度以下が望ましい)	各河川の計画による <small>河川管理施設等構造令より</small>
	パラペット高	m	計画高水流量による	
	余裕高	m	堤防余盛基準による	
	余盛高	m	計画高水流量による	
幅	幅端	B = m	3 m以上	"
	幅小	B = m B = m		
法勾配		1 : ~ 1 :	1 : 2 より緩 (安定計算を実施している場合は、安全率1.2以上)	"
	目的			
軟弱地盤 対策工	工法			
	範囲			
	安定度			
	液化			
	沈下量			
法覆工 の種類	川表H, W, L上			
	川表H, W, L下			
	川裏端			
	小天小			
付帯工	坂路	堤防規格外に設けている。いはいない	堤防規格外で下向きにとりつける	
	堤脚水路	下流向に設けている。いはいない 堤防規格外に設けている。いはいない	堤防規格外に設ける	

2) 高水護岸

項目	細別	設計値	基準値 (例)	備考
護岸形式	環境			
	基礎工			
	法覆工			
法覆工天端高			計画高水位以上	
法勾配		1 :	堤防法勾配と同じ	
基礎工	天端高		計画高水敷高以下	
	高さ	m	別途協議	

3) 低水護岸

項目	細別	設計値	基準値 (例)	備考
護岸形式	環境			
	基礎工			
	法覆工			
法覆工天端高			計画高水敷高	
法勾配		1 :		

護岸設計調査記載例 (2 / 3)

項目	細別	設計値	基準値 (例)	備考
法留工 (基礎工)	天端高	m	計画河床又は最深河床から法留工の天端を1.0 m以上深く埋込んで根入れとする。それ以外は鋼矢板必要とする。	
	根入れ深さ	m		
	高さ	h = m		別途協議
	鋼矢板長	L = m 型		
根固工	フック重量	t/個	原則として、河川砂防技術基準による。各河川の計画と整合をとる。	
	根固の幅	m	原則として、河川砂防技術基準による。各河川の計画と整合をとる。	
天端 保護工	設置の有無	設置している。いない。		
	構造種別			
	幅	m	2.0 m	
仮締切	仮締切高		別途協議	
	鋼矢板式	根入長 矢板長 頭部変位量 m m cm	頭部変位量；別途協議	
	土圧	土圧係数 ka = t/m ² , kae = t/m ²	クローン土圧	
	上載荷重	常時 t/m ² , 地震時 t/m ²	常時 1.0 t/m ² 地震時 0.5 t/m ²	

4) 鋼矢板護岸

項目	細別	設計値	基準値 (例)	備考
仮想地盤	自立板式	設計地盤から 0. × H = m下	荷重強度の釣合う位置 設計地盤より壁高(H)の0.1~0.3H	
	自立板式	D =	仮想地盤より3/β以深 控え取付点のモーメントの釣合い長さ×Fs	
根入長 許容量	自立板式	δ =	天端で5cm (常時) 7.5cm (地震時)	Changの式 控え変位量
	自立板式	δ =	天端で5cm (常時) 7.5cm (地震時)	
断面効率 腐食	継手	I =	断面二次モーメント α1=0.8 (頭部固定の場合) 断面係数 α2=1.0 (頭部固定の場合) 片面1mmを考慮(鋼鉄の給、引違)	
	腐食	Z =		
曲モーメント	自立板式	M =	Changの式により求める 控え取付点と仮想地盤面 モーメント計算により求める	
	自立板式	M =		
荷重図				

護岸設計調書記載例 (3 / 3)

5) 擁壁護岸

項目	細別	設計値	基準値 (例)	備考
安定計算	転倒 (合力の作用点) 滑動 (直接基礎) 支持力 (直接基礎) 杭頭変位	$e =$ $F_a =$ $F_a =$ $\delta =$	常時 1/3~2/3B 地震時 1/6~5/6B 常時 $F_s \geq 1.5$ 地震時 $F_s \geq 1.2$ 常時 $F_s \geq 3$ 地震時 $F_s \geq 2$	協議による
構造	目地、間隔、厚 最小部材、厚 ブロック積擁壁 もたれ式擁壁	② = t =	約10~20m 30cm 標準設計の裏込コンクリートを用いない構造が基本 標準設計による	
鉄筋	許容応力度 カブリ	$\sigma =$	常時 1600Kg/cm ² 地震時 2700Kg/cm ² 床版下面 15cm (基礎杭) 10cm (直接基礎) その他 7.5cm	
基礎杭	支持力計算	$R_a =$ $\sigma =$	道路橋示方書による	
荷重図				

樋門・樋管詳細設計照査要領

平成10年5月

基本条件の照査項目一覧表

(照査 ①)

件名： _____

発注者名： _____

受託者名： _____

照査の日付： 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No	項目	主な内容	照査①		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	
1	設計の目的、設計範囲	1) 目的・設計範囲を把握したか。			
2	河道条件	1) 本川及び支川の河道改修計画(暫定計画、将来計画)を把握したか。 2) 本川・支川の計画平面、縦断、横断形を把握したか。 3) 堤防の定規断面を把握したか。(計画断面、施工断面) 4) 水理条件を把握したか。			
3	設計基本条件	1) 計画諸元は適正か。 (設置位置、規模、断面、敷高、延長、河道計画との整合) 2) 基礎、本体形式の基本方針は妥当か。 3) 操作室上屋の有無を確認したか。 4) 護岸タイプを把握したか。 5) ゲート等、機電設備の設計の有無を確認したか。 6) 運転規則は把握したか。 7) ゲートの設計水位、操作水位を確認したか。 8) 仮締め切り等の条件を確認したか。 9) 設計水圧の方向を確認したか。 10) 関連する他の設計と整合がとれているか。			
4	地盤条件	1) 地層構成の把握は妥当か。 2) 土質定数の設定は妥当か。 3) 支持力、地盤バネ値の設定は妥当か。 4) 地下水位等の設定は妥当か。 5) 追加調査の必要性はないか。 6) 軟弱地盤として検討する必要性を確認したか。 (圧密沈下、液状化、地盤支持力、法面安定、側方移動等)			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No	項目	主な内容	照査①		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	
5	耐震検討	1) 耐震設計の考え方は妥当か。			
6	使用材料	1) 使用材料と規格（市場性、経済性を含む）、許容応力度は妥当か。 2) 新材料、再生材の適用の検討を行ったか。			
7	地形条件	1) 用地境界を確認したか。 2) 用地の権利関係を確認したか。 3) 施工ヤード、スペースを確認したか。			
8	施工条件	1) 施工上の制約条件を確認したか。 （スペース、交通条件、水の切り廻し等） 2) 工事時期を確認したか。 3) 旧施設の撤去条件を確認したか。 4) 付帯施設の有無、旧施設撤去及び電力源等の有無を確認したか。 5) 周辺の土地利用状況を把握したか。			
9	関連機関との調整	1) 関連機関と発注者との調整内容を確認したか。			
10	貸与資料	1) 必要な貸与資料があるか。			
11	環境及び景観検討	1) 環境及び景観検討の必要性、デザインコンセプト、範囲等は理解したか。 2) 環境及び景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は決定しているか。			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
12	現地踏査	1) 地形、現地状況（旧河道、用排水路、井戸、現場周辺の土地利用等）を確認したか。 2) 隣接工区との関係を確認したか。 3) 現道状況及び交通状況を把握したか。（家屋連坦、迂回路、道路幅員、ゴミ集積所、交通量、車両規制、通学路、緊急車両の通行の可否等） 4) 周辺構造物との関係を把握したか。（学校、病院、鉄道等） 5) 環境状況（騒音、振動、防塵、日照等の配慮）を把握したか。 6) 埋設物、架空線等（下水管、人孔、ガス、水道、ケーブル等）の位置、深さ、形状等を把握したか。 7) ボーリング図は適正か。（近接工区との関連性等） 8) 地質状況を把握したか。（季別地下水位、地下水利用状況、被圧の有無） 9) 貸与資料と現地の相違はないか。 10) 法令、条件に関する調査の必要性があるか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査①		備考
			該当提示資料 対象該当ページ	照査	

細部条件の照査項目一覧表 (照査②)

件名： _____

発注者名： _____

受託者名： _____

照査の日付： 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

No	項目	主な内容	照査②		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	
1	一般図	1) 一般平面図、縦断図、横断図は妥当か。 (様式-1設計基本条件との整合が図られているか)			
2	本体内	1) 函渠断面の形状(円形、単形、1連、2連等)は妥当か。 2) 最小部材厚は妥当か。 3) 継ぎ手の位置は妥当か。 4) カラーの長さは妥当か。 5) 函渠端部の補強厚さは妥当か。 6) 門柱の高さ、操作台のスペースは妥当か。また、ゲートの箱抜きは考慮しているか。 7) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継ぎ手、折り曲げ位置等) 8) 継ぎ手構造及び継ぎ手数は妥当か。 9) 計画堤防断面の切り込み量は妥当か。			
3	胸壁	1) 設置位置(川表、川裏)及び構造(本体と一体構造)は妥当か。 2) 高さ、長さ、天端幅は妥当か。			
4	翼壁	1) 構造形式は妥当か。 2) 高さは計画断面又は施工断面に合致しているか。 3) 範囲は設計断面以上となっているか。 4) 長さは妥当か。 5) 天端幅は妥当か。 6) 平面形状の角度は妥当か。			
5	水叩	1) 範囲、構造形式は妥当か。 2) ゲートの吊り込み位置とクレーン重量を考慮しているか。			

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
6	護床工	1) 範囲、構造形式は妥当か。				
7	遮水工	1) 遮水板の水平方向の設置個所、設置範囲は妥当か。 2) 高さ、幅は妥当か。 3) 厚さは妥当か。 4) 遮水板の型式、長さは妥当か。 5) 水平方向に可撓継ぎ手を使用しているか。				
8	管理橋	1) 設置高さは妥当か。（桁下高は計画堤防高以上か。） 2) 幅員は妥当か。 3) 法面保護工の範囲は妥当か。				
9	護岸工・階段工	1) 範囲、設置位置は妥当か。 2) 設置高さは妥当か。 3) 護岸工の構造は妥当か。 （根入れ、遮水シート、ブロック厚、環境への配慮等） 4) 根固め工の範囲、重量は妥当か。				
10	ゲート	1) 形式選定は妥当か。 2) 開閉装置の形式は妥当か。 3) ゲートの搬入・据え付け方法は妥当か。 4) 既存運転規則と整合がとれているか。				
11	上屋	1) 構造形式は妥当か。 2) 巻き上げ機等の搬入・据え付け方法は妥当か。 3) 意匠計画は妥当か。 4) 照明、操作用電源は考慮されているか。また、その方式は妥当か。 5) 操作、メンテナンスに必要な空間は妥当か。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－2）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
12	付帯設備	6) 日常点検における点検動線スペース、日常巡回点検時の点検動線ルートは妥当か。 7) 建築関係法規、消防関係法規に適合しているか。				
13	基礎工	1) 基礎形式は妥当か。 2) 地盤の最大残留沈下量は妥当か。 3) 液状化の判定は妥当か。 4) 空洞化等に対する適切な対策工がなされているか。 5) 特殊条件を考慮しているか。 6) (杭基礎の場合)杭種、杭径は妥当か。また、支持層への根入れは妥当か。 7) ネガティブフリクションの照査を行ったか。 8) 施工方法は周辺環境を考慮して選定しているか。 9) 構造細目(杭頭処理、杭の継手等)は妥当か。				
14	施工計画	1) 施工手順は妥当か。 2) 仮締切堤の構造、高さは妥当か。 3) 仮締切堤設置後の本川の流下能力は考慮されているか。 4) 水路の切廻しの安全性は妥当か。 5) 工事用道路(長尺物等の搬入)の経路は妥当か。 6) 地下水位の設定及び地下水対策は妥当か。 7) 掘削法面の形状は妥当か。 8) 環境対策(騒音・振動等)は妥当か。 9) 旧施設の撤去方法は妥当か。 10) マスコンクリートとして扱う必要があるか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
15	軟弱地盤対策工	1) 対策工の目的及び工法は妥当か。 2) 対策工の効果の判断及び範囲は妥当か。 3) 樋門・樋管設置位置の見直しは必要ないか。				
16	その他	1) グラウトホールは設置されているか。 2) 点検、塗装等維持管理を考慮しているか。 3) 景観検討結果は妥当か。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料該当ページ	照査	

成果品の照査項目一覧表 (照査 ③)

件名： _____

発注者名： _____

受託者名： _____

照査の日付： 平成 年 月 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	
1	設計計算書	1) 各検討設計ケースは適切か。 2) 安定計算結果は許容値を満たしているか。 (撓み量、変位量、安定に対する安全度) 3) 荷重、許容応力度の取り方は正しいか。 4) 荷重図、モーメント図等は描かれているか。 5) 施工を配慮した計算となっているか。 6) 作用応力度は許容値を満たすか。 7) 杭径、杭配置は適正か。			
2	電算機による構造解析	1) 構造モデルと実際の構造系は合致しているか。 2) 入力データの算出根拠は明記されているか。 3) 出力データの読み取り方法を具体的に説明しているか。 4) 利用したプログラム名とその会社名は明記されているか。			
3	設計図	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 設計委託標準仕様書の設計図作成要領と整合しているか。 3) 一般図には必要項目が記載されているか。(設計条件、地質条件、法線、水位、付属構造物等) 4) 構造物の基本寸法、高さ関係は照合されているか。 5) 構造詳細は、適用基準及び標準構造と整合しているか。 6) 取り合い部の構造寸法は整合しているか。 7) 各設計図がお互いに整合しているか。(一般平面図と縦横断面図、構造図と配筋図、構造図と仮設図etc.) 8) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 (特に応力計算書、安定計算書等の結果が適用範囲を含めて整合しているか。)			

成果品の照査項目一覧表（様式-3）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
4	数量計算書	<ul style="list-style-type: none"> ・壁厚 ・鉄筋(径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、かぶり、ガス圧接位置等) ・鋼材形状、寸法 ・使用材料 <ol style="list-style-type: none"> 1) 数量の単位及び数値の取り方は、設計委託標準仕様書の数値基準と整合しているか。 2) 数値計算に用いた寸法・数値は図面と整合しているか。 3) 数量の取りまとめは、種類毎、材料毎等に整理されているか。 4) 数量計算の根拠となる資料(根拠図等)は作成されているか。 5) 施工を考慮した数量計算となっているか。(コンクリート打設量における後打ち量の分離等) 6) 数量総括表が正しく整理されているか。 				
5	施工方法の検討	<ol style="list-style-type: none"> 1) 施工時の道路・河川等の切り廻し計画は適切か。 2) 工事用道路、運搬路計画は適切か。 3) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。 4) 部材長、部材寸法、部材重量は適正か。 5) 施工法、施工順序、施工工程は適切か。 6) 支保工、仮設備(仮設電源、照明、昇降設備等)は適切か。 7) 安全性、経済性は適切か。 8) 暫定計画、完成計画と整合しているか。 9) 環境対策は適切か。 10) 施工機械の種類、規格は適切か。 				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③		備考
			該当提示資料 対象該当ページ	照査	
6	設計調書	1) 調書の記入は適切か。 2) 相対的に見て問題ないか。(主要寸法、主要数値を他工事の類似例や一般例と比較する。例： m^2 当たりコンクリート量、 m^3 当たり鉄筋量の比較)			
7	報告書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 条件設定の考え方が適切か。 3) 比較検討の結果が整理されているか。 4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。 5) 基準等の引用には出典図書及びページが明記されているか。			
8	成果品	1) 成果品は、設計委託標準仕様書の成果品一覧表と整合しているか。			
9	TECRIS	1) TECRISの登録は行ったか。			

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査③		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	

() ()

設 計 調 査 書 (/)

件 名	
廻門・樋管名	
河 川 名	
場 所	
発 注 者 名	
受 託 者 名	
管理・主任技術者	
作成年月日	平成 年 月 日

※ 記載例 (1/6~6/6) を参考に必要部分を作成する。

種別	形 状	項 目	細 別	基 準 値	計 画 値	備 考

設計調査書記載例 (1 / 6)

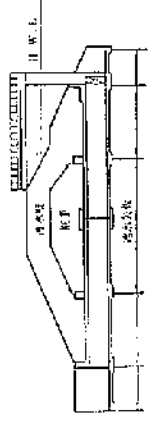
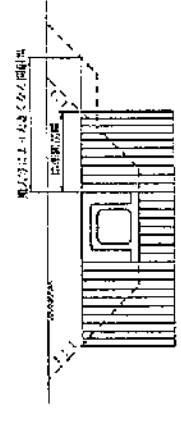
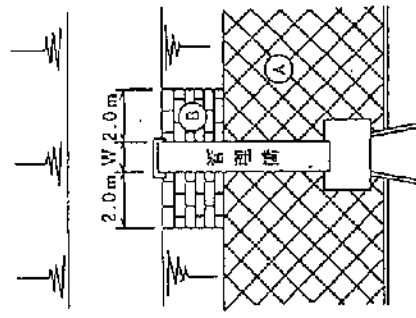
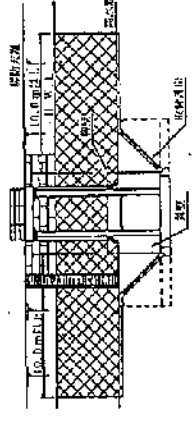
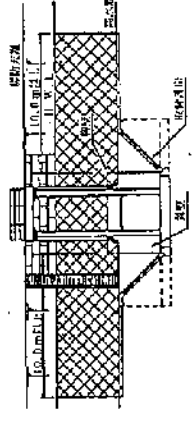
件名	
樋門・樋管名	
河川名	
場所	
発注者名	
受託者名	
管理・主任技術者	
作成年月日	平成 年 月 日

種別	形状	項目	細別	基準値(例)	計画値	備考	
基本事項		河道諸元	<本川> 堤防高 高水位 平水位 <支川> 堤防高 高水位 平水位				
		設計位置		・形状の安定 しているところ		河川名: 右岸岸別: 植杭:	
		方向		・堤防の接合に対し直角			
		敷高		・水平とする ・敷高の決定根拠			
基本		断面	最小	・国産面の部材最小厚は t=30mmとする。但し、内 生寸法が1,25m×1,25m以 下の場合には、t=30mm とすることができる。	厚さ()cm		
		余裕高(h)	断面	円形 φ600以上 矩形 L、B≧L、900以上	円形 φ() B×H×運		
		函	渠	Q<50m ³ /S, 30以上 Q≧50m ³ /S, 60以上 Q=20m ³ /S未満は特例	Q=()m ³ /S H=()cm	径下分(S) S= cm	
			橋	・函渠の長さは掘削法尻ま でとする。但し、地形条 件等やむを得ない事情が ある場合は、函渠の頂部か ら高さ1.5m以内までの範 囲で短くできる。			
工	継ぎ手	径間長	径間長	・函渠の長さ30m以上に なる場合は、継手を設ける 軟弱地盤、地盤沈下対策 では、2.0m以下。	径間長 L=()m		
		ガターの長さ	ガターの長さ	・内法幅によりカラーの 長さを決定。	内法幅()m カラー長さ()m		

設計図書記載例 (2 / 6)

種別	形状	項目	細別	基準値(例)	計画値	備考
本体工		函渠端部の構造	補強高さ Δt	<ul style="list-style-type: none"> ・頂版厚 $t \geq 50\text{cm}$ ・補強なし ・頂版厚 $t < 50\text{cm}$ ・$t/2$補強 		補強後上限50cm
		門柱	高さ 操作台上屋	<ul style="list-style-type: none"> ・$H_{\text{柱}} = h_1 + h_2 + b_3 \geq h_4 + b_5$ ・門柱と一体補強とする ・有 無 ・構造形式 	$H_{\text{柱}} = ()\text{m}$	
胸壁工		胸壁	構造	<ul style="list-style-type: none"> ・川表、川裏共に本体と一体構造 ・頂版からの高さ $H \leq 1.50\text{m}$ 	$H = ()\text{m}$	
			高さ (H) 長さ (Lo)	<ul style="list-style-type: none"> ・1.0m以上 ・0.35m以上 	$Lo = ()\text{m}$	
壁工			天端幅	<ul style="list-style-type: none"> ・(H)型にあつては0.40以上) ・自立構造とし、本体と分離 	$to = ()\text{m}$	Uタイプ 逆ノコリ タイプ
			構造	<ul style="list-style-type: none"> ・計測断面に合致 	$Ho = ()\text{m}$	
壁工			高さ	<ul style="list-style-type: none"> ・計測断面以上の高さ 	$Lo = ()\text{m}$	
			範囲 (Lo)	<ul style="list-style-type: none"> ・取付水路の法肩から1.0m以上。又は、端部壁高+1.0mのいずれか長い方。 ・通常は55cm以上、小規模の時は、80cmとするこゝとがてまる。 	$L1 = ()\text{m}$	天端幅
水叩工			天端幅	<ul style="list-style-type: none"> ・溝底として、その角度は$0.1:1.5$(1:1.5)程度 	$B = ()\text{m}$	
			形状	<ul style="list-style-type: none"> ・$0.1:1.5$(1:1.5)程度 	$\theta = ()^\circ$	
水叩工			範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・壁の長さと同じ。 	$L = ()\text{m}$	
			遮水工	<ul style="list-style-type: none"> ・矢張が不可能な場合には$1/7$1.0m程度 	$Lo = ()\text{m}$	

設計図書言記載例 (3 / 6)

種別	形 状	項 目	細 別	基準値 (例)	計 画 値	備 考
遮 水		鉛直方向	設置箇所	<ul style="list-style-type: none"> 一般的には川差、中央、川灘の3箇所 		
			高さ 幅	<ul style="list-style-type: none"> 高さ 1.0 m 以上 幅 1.0 m 以上 	H ₀ =()m B ₀ =()m	
			厚 さ	<ul style="list-style-type: none"> t₀ ≥ 40 cm 小規模な場合は30 cm 	t ₀ =() m	
工		水平方向	遮水矢板	<ul style="list-style-type: none"> Laneの方法で長さを決定しⅡ型以上とする 	矢板長さ L=()m 矢板()型	
			設置箇所	<ul style="list-style-type: none"> 川差から優先して2ヶ所以上 	()ヶ所	
			範 囲	<ul style="list-style-type: none"> 船舶幅及びlaneの方差を原則とする。 	L=() m	
管 理 橋			可撓継手	<ul style="list-style-type: none"> 矢板先端までフレックスマブルな構造 	可撓継手()型	
			構 造	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、鋼趾 		
			幅 員	<ul style="list-style-type: none"> 1.0 m 以上 	B=() m	
護 岸 工			スパン	<ul style="list-style-type: none"> 構体は1スパン。操作台側を可動支承 	スパン()m	
			設置高さ	<ul style="list-style-type: none"> 桁下高は欄間幅高以上 	桁下高()m	
			防護柵及び扉	<ul style="list-style-type: none"> H ≥ 1.1 m 原則として内開き 	防護柵の高さ H=()m	
護 岸 工			法 面 保 護 工	<ul style="list-style-type: none"> 欄間は管柱橋の上・下流端からそれぞれ2.0 m程度 欄間上部より上・下流それぞれ10m以上。但し、工事施工上、開削した場合は欄間の法面より3.0 m以上範囲までとする。 	B=()m	
			範 囲	<ul style="list-style-type: none"> H、W、L以上とする 	Lo=()m	
			高 さ			

設計図書記載例 (4 / 6)

種別	形	状	項目	細別	基準値(例)	計画値	備考	
ゲ ー ト				構造	・御構造又は、これに準ずる構造			
				ゲート型式				
				閉鎖装置の形式	原動機・手動装置			
上 屋				引き上完了時のゲート下端高				
				水密性				
有 無								
				構造形式				
付 帯 設 備				階段	・川表は施工断面に合致 ・川底は施工断面外			
				法面保護	・階段地階端部より 1.0 m以上			
水 位 観 測 設 施 の 有 無				水位観測	・防護柵			
				観測施設	・船舶通航用信号 ・防眩材			
ゲ ア ト の 設 置				ゲアトホールの設置	・軟弱地盤上に設置する 場合には、5.0 m以下の間隔でグラウトホー ルを設ける。			
そ の 他								

〔仮締切堤計画諸元〕

種別	形	状	項	目	計画値
仮 締 切 堤			・設計対象水位	洪水期	
				非洪水期	
			・締切堤 天端高		
			・締切堤 取付位置		
			・仮設時の本支川の疎通能力		
			・締切堤 構造型式		

設計調書記載例 (5 / 6)

基礎工

(1) 直接基礎

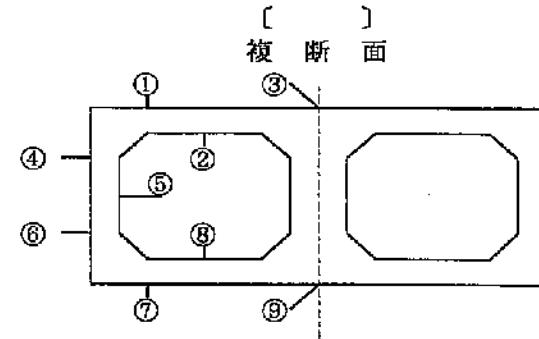
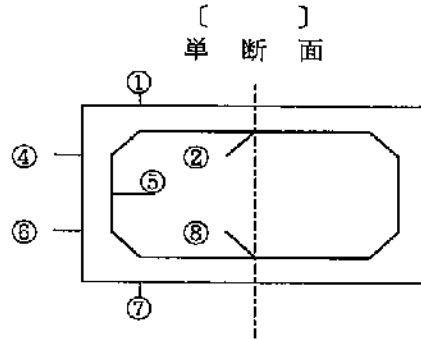
種 別	沈 下 量 ($\delta \leq 10\text{cm}$)	支 持 力		判 定	備 考
		鉛直支持力 (t/m^2)	許容鉛直支持力 (t/m^2)		
置 換 無					・支持地盤 () ・N 値 ()
置 換 有		〃	〃		・置換土諸元 ・厚さ H = () ・幅 B = () ・置換土名称 ()
地盤改良		〃	〃		・改良工法の諸元

(2) 杭基礎

構造名・荷重状態等						
作 用 力	鉛直力 N (t)					
	水平力 H (t)					
	変位量 δ (cm)					
	杭体応力度					
許 容 値	鉛直力 N (t)					
	水平力 H (t)					
	変位量 δ (cm)					
	杭体応力度					
決 定 ケ ー ス						
使 用 杭	杭 種					
	杭 径 : ϕ (mm)					
	杭 長 : L (m)					
	本 数 : n (本)					

設計調書記載例 (6 / 6)

応力照査表



鉄筋組立図

(1) 横 方 向

応力照査位置		頂 版			側 壁			底 版		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
断 面 力	曲げモーメント $M(t.m)$									
	軸 力 $N(t)$									
	せん断力 $S(t)$									
部 材 厚 (cm)										
鉄 筋 量 (As)										
実応力度	σ_c (Kg/cm ²)									
	σ_s (Kg/cm ²)									
	τ_a (Kg/cm ²)									
許容 応力度	σ_{ca} (Kg/cm ²)									
	σ_{sa} (Kg/cm ²)									
	τ_a (Kg/cm ²)									
決定したケース										

(2) 縦 方 向

検 討 ケ ー ス				
断 面 力	曲げモーメント $M(t.m)$			
	軸 力 $N(t)$			
	せん断力 $S(t)$			
部 材 厚 (cm)				
鉄 筋 量 (As)				
実応力度	σ_c (Kg/cm ²)			
	σ_s (Kg/cm ²)			
	τ_a (Kg/cm ²)			
許容 応力度	σ_{ca} (Kg/cm ²)			
	σ_{sa} (Kg/cm ²)			
	τ_a (Kg/cm ²)			

公園詳細設計照査要領

平成10年5月

基本条件の照査項目一覧表

(照査 ①)

件 名： _____

発注者名： _____

受託者名： _____

照査の日付： 平成 年 月 日 _____

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	設計の目的・主旨	1) 目的・主旨を理解したか。 2) 関連する他事業の有無は確認したか。 3) 上位計画、基本計画を把握したか。 4) 設計の主な項目、工程等について具体的内容を把握したか。				
2	設計の範囲、内容、数量、履行期間、工事発注時期	1) 設計の範囲は把握したか。 2) 設計の内容と数量は把握したか。 3) 設計の履行期間は把握したか。 4) 工事の発注時期は把握したか。				
3	貸与資料	1) 基本設計は適正か。 2) 貸与資料の不足、追加事項があるか。 3) 事務所、公園、霊園毎に統一された基準要領があるか。				
4	現地踏査	1) 地形、地質状況を把握したか。 2) 利用実態、近隣状況を把握したか。 3) 支障物件の状況を把握したか。 （地下埋設物を含む） 4) 施工時の留意事項を把握したか。				
5	設計条件	1) 適応基準を確認したか。 2) 東京都福祉のまちづくり条例“施設整備マニュアル”を確認したか。 3) 関連する設計と整合がとれているか。				
6	地形条件	1) 用地境、境界杭は明確か。 2) 用地の権利関係を確認したか。 3) 施工ヤード、スペースを確認したか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

No	項目	主な内容	照査①			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
7	関連機関との調整と協議、及び協議関連資料の整理	1) 関係諸官庁、諸機関及び周辺住民との協議調整事項は設計に反映されているか。 2) 協議条件と一致しているか。 3) 協議関連の資料は整理したか。				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査①		備考
			該当提示資料 対象	該当ページ 照査	

細部条件の照査項目一覧表 (照査②)

件名：_____

発注者名：_____

受託者名：_____

照査の日付： 平成 年 月 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	敷地造成工	1) 造成土の搬出入計画は適正か。 2) 計画高は与条件通りか。 3) 法面保護工は安定上問題無いか。 4) 土質条件は適正か。				
2	修景施設工	1) 植栽の樹種設定、土壌条件は適正か。 2) 苗圃の樹木利用を検討しているか。 3) 池・流れ・噴水・滝等の設置条件は適正か。 4) 彫像・石組等の材料・性質は景観に適合しているか。				
3	休養施設工	1) 休憩所・ベンチ・野外卓等の設置条件は適正か。				
4	遊戯施設工	1) 安全性は適正か。 2) 耐久性は適正か。				
5	運動施設工	1) 機能・耐久性は適正か。 2) 周辺環境への配慮は適正か。				
6	教養施設工	1) 計画条件は適正か。				
7	便益施設工	1) 便所 配置・規模は適正か。 利用者の安全、プライバシー等に配慮しているか。 機能・耐久性を考慮しているか。 給排水は適正か。 建築基準法上の措置を考慮しているか。 2) 水飲み 利用対象者の設定は適正か。 給排水は適正か。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
8	管理施設工	<p>3) 駐車場 利用対象車種・台数の設定は適正か。 周辺施設の確認はしているか。 舗装の種類・構造は適正か。 有料・無料の別、対応時間が決定しているか。</p> <p>4) 売店 営業内容・営業品目は決定しているか。 建築基準法上の措置を考慮しているか。</p> <p>1) 管理事務所・詰所・倉庫・車庫・材料置場 公園の管理形態・施設内容は決定しているか。 規模・構造は適正か。 建築基準法上の措置を考慮しているか。</p> <p>2) 門・柵 目的は決定しているか。（高さ・強度） 安全性・耐久性は適正か。 景観・デザインの考慮はされているか。</p> <p>3) 案内板・揭示板・標識 利用形態・動線は決定しているか。 設置場所・目線の高さは適正か。 耐久性は適正か。 景観・デザインの考慮はされているか。</p> <p>4) 照明施設 照度は適正か。 管理形態・受電は決定しているか。 耐久性は適正か。 景観・デザインの考慮はされているか。</p>				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
		5) ゴミ処理場・ゴミ箱 リサイクルの検討（ノー屑籠運動）はされているか。 管理形態・容積・規模は決定しているか。 景観・デザインの考慮はされているか。 建築基準法上の措置を考慮しているか。				
		6) 水道・井戸 使用目的（上水・工水・井戸水）は決定しているか。 環境保全局との調整（井戸）は済んでいるか。				
		7) 擁壁・護岸 構造計算は適正か。 景観への配慮はされているか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式一 2）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査②		備考
			該当提示資料 対象	該当ページ 照査	

成果品の照査項目一覧表 (照査③)

件名：_____

発注者名：_____

受託者名：_____

照査の日付： 平成 年 月 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	設計書	1) 設計の目的・主旨を満たしているか。 2) 打合せ事項は反映されているか。 3) 上位計画、基本計画との整合性はとれているか。 4) 東京都福祉のまちづくり条例“施設整備マニュアル”は満足しているか。 5) 各構造物の構造計算はされているか。 6) 給水施設の水压計算はされているか。 7) 排水施設の水量計算はされているか。 8) 照明施設の照度計算はされているか。				
2	設計図	1) 縮尺は契約図書と整合しているか。 2) 打合せ事項は反映されているか。 3) 各施設や設備は、全体一般図に必要な項目が記載されているか。 4) 設計条件、地質条件等必要な項目は記載されているか。 5) 表記方法は適正か。 6) 解り易い注記がついているか。 7) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。				
3	数量計算書	1) 数量の単位及び数値の取り方は、設計委託標準仕様書の数値基準及び打合せ事項と整合しているか。 2) 数量計算に用いた寸法、記号は図面と一致するか。 3) 数量取りまとめは、種類毎に、材料毎に、打合せ区分毎にまとめられているか。 4) 施工を考慮した数量計算となっているか。 （コンクリート打設量における後打ち量の分離等）				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
4	施工方法の検討	1) 資材搬入路、仮設計画等は適正か。 2) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。 3) 安全性は配慮されているか。 4) 暫定計画、完成計画との整合はとれているか。 5) 既設公園部と工事範囲との取り合いは適正か。 6) 施工機械の種類、規格は適切か。				
5	設計調書	1) 調書の記入は、適正にされているか。 2) 相対的に見て問題ないか、（主要寸法、主要数値を、他工事の類似例や一般例と比較する。例：㎡当たりコンクリート量、m ₃ 当たり鉄筋量の比較）				
6	報告書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 条件設定の考え方が整合しているか。 3) 比較・検討の結果が整合されているか。 4) 概算工事費の根拠は明確か。 5) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。 6) 設計基準値を技術指針等より引用している場合には出展図書名及びページを明記しているか。				
7	電算機による構造解析	1) 構造モデルと実際の構造系は合致しているか。 2) 入力データの算出根拠は明記されているか。 3) 出力データの読み取り方法を具体的に説明しているか。 4) 利用したプログラム名とその会社名は明記されているか。				
8	成果品	1) 成果品は、設計委託標準仕様書の成果品一覧表と整合しているか。				
9	TECRIS	1) TECRISの登録は行ったか。				

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

（追加項目記入表）

No	項目	主な内容	照査③		備考
			該当提示資料 対象	該当ページ 照査	

公園実施設計調書（都市公園用）

(/)

業務名	所在地			受託者名		施工箇所				
	公園名			主任技術者名		施工規模				
都市計画公園名	事務所名			照査技術者名		面積				
	公園の種別			作成年月日		平成 年 月 日				
開園状況	昭・平	年 月 日	面積	m ²	事業認可	昭・平	年 月 日	号	面積	ha
	昭・平	年 月 日	面積	m ²	事業認可変更	昭・平	年 月 日	号	面積	ha
	昭・平	年 月 日	面積	m ²	事業認可変更	昭・平	年 月 日	号	面積	ha
	昭・平	年 月 日	面積	m ²						
	昭・平	年 月 日	面積	m ²						
	昭・平	年 月 日	面積	m ²						
土地所有関係										
用途地域	建ぺい率			容積率			防火・準防火・その他			
その他地区地域	-----									

公園実施設計調書（自然公園用）

(/)

業務名			所在地			受託者名			施工箇所			
事業所 支庁名			公園の種別 国立公園・国定公園 都立自然公園 長距離自然歩道 その他（ ）			照査技術者名			施工規模			
						主任技術者名			自然公園法の 手続き	14条・17条 18条・20条 不要・その他		
						作成年月日	平成	年				月
公園名			保護計画			計画決定	昭・平	年	月	日	厚・環	号
園地歩道名			利用計画			事業決定	昭・平	年	月	日	厚・環	号
事業決定変更	昭・平	年	月	日	厚・環	号	用途地域		排水基準			
事業決定変更	昭・平	年	月	日	厚・環	号	建ぺい率		保安林			
事業決定変更	昭・平	年	月	日	厚・環	号	容積率		鳥獣保護区			
事業決定変更	昭・平	年	月	日	厚・環	号	防火及び準防火		その他			
事業決定変更	昭・平	年	月	日	厚・環	号	砂防指定					
事業決定変更	昭・平	年	月	日	厚・環	号	土地所有関係					
事業決定変更	昭・平	年	月	日	厚・環	号	土地所有関係					
事業決定変更	昭・平	年	月	日	厚・環	号	土地所有関係					

公園実施設計調書

(/)

調 査 ・ 確 認	隣接道路	東側	延長	m、幅員	m、管理者	、路線番号	
		西側	延長	m、幅員	m、管理者	、路線番号	
		南側	延長	m、幅員	m、管理者	、路線番号	
		北側	延長	m、幅員	m、管理者	、路線番号	
	上水の確認	水道	管径	mm、水圧	k、管理者		
		井水	管径	mm、水圧	k、揚水量	m ³	
	下水道の有無	有	(合流・分流)	位置	、管径	mm、埋設深G L - m	
			所有者・管理者				
		無					
	電気の確認	位置				、電柱番号	
	電話の確認	位置				、電柱番号	
	ガスの有無	有	(都市ガス)	位置	、管径	mm、埋設深G L - m	
所有者・管理者							
無							
警察署協議の有無	有	警察署、(電話)					
	無						

公園実施設計調書

(/)

	基本設計の有無	有	
		無	
	測量成果・地質調査結果の有無	有	
		無	
	東京都福祉のまちづくり条例「施設整備マニュアル」の確認		済
	施設概要		
その他			

公園実施設計調書

(/)

設計条件															
敷地造成工	主たる地質														
	切土	m ³		残土量		m ³		発生土の利用方法		① (搬出) ② (搬入)					
		盛土	m ³		不足土量		m ³								
	計画高		最大盛土高	m		のり勾配	盛土	m		のり面の種類	盛土				
		最大切土高	m		切土		m		切土						
その他															
修景施設工	植	土壤調査	発生土												
			改良土												
			客土												
	栽	植栽樹木	購入材					支給材							
			高木	低木	特殊樹木	株物	地被類	芝	高木	低木	特殊樹木	株物	地被類		
	池・流れ・噴水・滝	規模・面積	m ²			水深	cm		高低差	m					
		水底の構造 (仕上げ材)		()				防水の種類							
		給水の方法		給水量		m ³		流量計算		ピット容量		m ³			
		排水の方法		処理先			滅菌処理の有無				設備機器のメンテ考慮				
		循環・濾過方法													

公園実施設計調書

(/)

修 景 施 設 工	石組	石組の方法		材 料 の 形 状		加工方法 (仕上げ)				
				材 料 の 産 地						
	彫 刻 等	材 質		構造計算の有無		設置理由				
		形 状 寸 法								
その他										
休 養 施 設 工	休憩所	利用形態の確認		構 造		床 材 料		構造計算の有無		
		設置場所の検討		屋根材料		ベンチ設置の有無		計画通知の有無		
	ベンチ	利用形態の確認		構 造		野 外 卓	利用形態の確認		構 造	
		設置場所の検討		形状寸法			設置場所の検討		形状寸法	
	その他									
	遊 戯 施 設 工	名 称		仕 上 げ 材 料				設置場所周辺の舗装構造		
利 用 形 態			耐 久 性 の 検 討							
構 造										
その他										

公園実施設計調書

(/)

運動施設工事	競技種目		設置場所の検討	方位		施設の規模		
	競技種別	1種 2種	構造			表面仕上げ		
	表面勾配		夜間照明の有無	有 無	排水の検討		安全対策	
	付帯施設	ベンチ、屑籠、手足洗い場						
		物置、休憩の場(日陰)、スタンド						
その他	散水の有無							
教養施設工事	設置目的			設置場所の検討				
	施設の規模			構造				
	その他							
便益施設工事	便所	床面積	m ²	構造				
		給排水の確認						
	洗浄方法の確認							
	水飲み	利用形態の確認			給水の確認			
		排水の確認			構造			

公園実施設計調書

(/)

便 益 施 設 工	駐 車 場	利 用 車 種		利用台数	台	規 模	m ²	無料・有料の有無	
		舗 装 の 種 類		舗 装 構 造			出入口の確認・協議		
	売 店	管理許可の確認			営業内容の確認				
		営業品目の確認							
		床 面 積	m ²	構 造			給排水の確認		
その他									
管 理 施 設 工	管 理 事 務 所	利用形態の確認		使用人数	人	管理形態の確認			
		使用内容の確認		床 面 積	m ²	構 造			
		給排水の確認							
	詰 所 倉 庫 他	利用形態の確認		使用人数	人	管理形態の確認			
		使用内容の確認		床 面 積	m ²	構 造			
		給排水の確認							
	門 ・ 柵	目 的 の 確 認		高 さ	m	構 造			
		設 置 場 所				景 観 の 検 討			
	案 内 板	利用形態の確認		動線の確認		設 置 場 所			
デザインの検討			構 造		形 状 寸 法				
掲 示 板	利用形態の確認		動線の確認		設 置 場 所				
	デザインの検討		構 造		形 状 寸 法				

公園実施設計調書

(/)

	標識等	利用形態の確認		動線の確認		施設の規模	
		デザインの検討		構造		表面仕上げ	
	照明施設	利用形態の確認		照度		管理形態の確認	
		受電の検討			形状寸法		
		高さ			構造		
	ゴミ箱	管理形態の確認		設置の有無		容積	m ³
デザインの検討					設置場所の検討		
管 理 施 設 工	ゴミ処理場	管理形態の確認		設置の有無		リサイクルの検討	
		床面積(容積)	m ² (m ³)	構造			
		給排水の確認		デザインの検討		建築基準法の処置	
	水道等	使用目的の確認		使用種別	上水・井水・工水	給水位置	
		配水方法		管径			
	排水	汚水	管径	構造			
		雨	流域の確認	浸透の確認			
		水	管径	構造			
	擁壁等	使用目的の確認		種別		構造	
		高さ		面積・延長		構造計算の確認	
	その他						

公園実施設計調書

(/)

撤 去	アスファルト	搬出量	m ³	運搬距離	m	搬出方法：10t車、4t車、2t車
		処分地				
工	コンクリート	搬出量	m ³	運搬距離	m	搬出方法：10t車、4t車、2t車
		処分地				
建設 副 産 物	コンクリート (2次)	搬出量	m ³	運搬距離	m	搬出方法：10t車、4t車、2t車
		処分地				
	その他	搬出量	m ³	運搬距離	m	搬出方法：10t車、4t車、2t車
		処分地				
	その他	搬出量	m ³	運搬距離	m	搬出方法：10t車、4t車、2t車
		処分地				

仮設構造物詳細設計照査要領

平成10年5月

基本条件の照査項目一覧表 (照査 ②)

件 名： _____

発注者名： _____

受託者名： _____

照査の日付： 平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（仮設構造物）

No	項目	主な内容	照査②		備考
			該当対象	提示資料 該当ページ 照査	
1	設計の目的・主旨	1) 設計目的・主旨は理解したか。 2) 本体構造物との整合はとれているか。			注) ・設計の範囲、内容、施工期間 ・現地踏査は、本體工で行っている ので削除する。
2	設計基本条件	1) 設計基準に準じているか。また、その適用範囲内か。 （道路土工—仮設構造物工指針、日本建築学会—山留め設計施工指針、首都高速道路公団基準 等） 2) 工法の比較検討は適正か。 3) 土質定数の設定は適正か。 （単位体積重量、内部摩擦角、粘着力、透水係数等） 4) 設計荷重は適正か。 （死荷重、活荷重、特殊荷重、土圧、水圧等） 5) 使用材料、材質、強度等の確認を行ったか。（生材、加工材、鋼矢板の断面係数、市場性等） 6) 地震時の考慮は必要か。 7) 地下水に対する考え方は適正か。 8) 施工基面を確認したか。			
3	施工上の基本条件	1) 仮設工法の選定は適正か。 2) 河積への阻害はないか。 3) 本体構造物との離れ等の位置関係は適正か。 4) 運搬路、迂回路、工事用搬入路等の経路、幅員、勾配等は適正か。 5) 施工時の用地占用は確認されているか。 6) 工事時期や工程が考慮されているか。 7) 覆工の必要性の検討はされているか 8) 近接構造物等への影響を考慮する必要はあるか。 9) 一般交通の安全性は考慮されているか。 10) 歩行者の通路は確保されているか。 11) 防音、防塵及び日照対策は適正か。			

基本条件の照査項目一覧表（仮設構造物）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
4	関連機関との調整	1) 埋設物及び架空線の切り廻し又は仮受等について関係機関との協議がされているか。				
5	貸与資料	1) 必要な貸与資料があるか。(基本設計報告書、交通量調査報告書、地質調査報告書、埋設物台帳河川の水位流量等の記録等)				

基本条件の照査項目一覧表（仮設構造物）

No	項目	主な内容	照査②			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	

成果品の照査項目一覧表

(照査 ③)

件名： _____

発注者名： _____

受託者名： _____

照査の日付： 平成 年 月 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（仮設構造物）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
1	仮設工法の選定	1) 経済性、施工性、安全性、及び周辺環境の面から総合的に工法の比較選定が行われているか。 2) 沿道条件、交通処理方法を考慮しているか。 3) 既設構造物への影響を考慮しているか。 4) 隣接工区と整合はとれているか。 5) 地盤改良の必要性の検討はされているか。 6) 施工機械の種類、規格は適切か。 7) 仮設材の設置、撤去、転用等の計画は適切か。 8) 施工に必要なヤードは確保されているか。 9) 仮設構造物の流下能力に対する影響は適切に検討されているか。 10) 各施工段階に於ける本川の流下能力は確保されているか。				
2	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 設計上の条件設定は整理されているか。 (地質条件、土質条件、荷重条件、水位、計算方法、隣接工区の条件の整合性等) 3) 計算位置は適正か。 4) 設計項目は十分か。 ①根入れ及び掘削底面の安定(つり合い深さ、支持、ボルト、ヒール、パイル、円弧すべり、盤ぶくれ等) ②土留、支保工、中間杭(応力、変位置、支持力、摩擦力、座屈等) ③覆工(応力、たわみ量等) 5) 指定された規定を満足しているか。 (「建設工事公衆災害防止対策要綱」等) 6) 設計結果は許容範囲内か。(許容応力度、変位置等)				

成果品の照査項目一覧表（仮設構造物）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	
3	設計図	7) 施工上の配慮がなされているか。 （本体構造物との離れ、本体構造物の施工順序との関係、施工足場、撤去、盛替、水替等） 1) 部材長の決め方は適正か（土留材 0.5m単位で切り上げ等） 2) その他は本体と同様。				
4	数量計算書	・ 本体と同様。				
5	設計調書	・ ”				

成果品の照査項目一覧表（仮設構造物）

No	項目	主な内容	照査③			備考
			該当対象	提示資料 該当ページ	照査	

設計調書 (/)

業務名			
施工箇所			
構造物名		照査管理者	
受託者名		主任技術者	
作成年月日			

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
(断面図)		(ボーリング図)																																																								
<table border="1" style="margin: auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>γ</th> <th>c</th> <th>ϕ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			区分	層厚	N	γ	c	ϕ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	γ	c	ϕ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
<p>(注) 1. 土の種類は次の通り。 ① 砂質土 $N > 5$ ② 粘性土 $N \leq 5$ ③ 粘性土 $N \leq 5$ 2. ボーリング図の出典を記入すること。 3. 水位を明示すること。 4. 設計地盤面を明示すること。</p>																																																										
(平面図)																																																										

設計調書(土留工・支保工) (/)

項	目	設計結果		備考 (参考基準値)	
		計算値	使用値		
土留工	土留杭方式	根入長※1		※1 1.5 m以上(岩盤は別途)	
		断面寸法※2		※2 H-300以上	
		応力			
		支持力			
		最大変位			
	土留板	断面寸法※3			※3 3.0 cm以上
		応力			
		根入長※4			※4 3.0m以上(岩盤は別途)
		断面寸法※5			※5 III型以上
		最大変位			
支保工	腹起し	間隔※6		※6 垂直3.0m程度以下、頂部1.0m程度以内	
		断面寸法※7		※7 H-300以上 継手間隔6.0 m以上	
		応力度及び安全度			
		間隔※8		※8 水平5.0m以下、垂直3.0m程度以内	
		断面寸法※9		※9 H-300以上	
	グラウンドアンカー	応力度及び安全度			※10 $10 \leq \alpha \leq 45$ (α :傾角)
		間隔			(注1) 次の計算ケースにより決定され たものを選ぶ。 (a)掘削完了時 (b)最下段切ばり設置直前 (c)撤去時 (d)盛替時
		傾角※10			(注2) 次の計算ケースにより決定され たものを選ぶ。 (a)(つりあい深さ) $\times 1.2$ 以上 (b)ボルトが対する必要長 (c)ピンが対する必要長 (d)3.0m以上
		緊張力			
		自由長			
中間杭	定着長				
	使用材料				
	間隔				
	断面寸法				
	支持力				
特記事項					

設計調書(縮切工)(/)

項	目	設計結果		備考
		計算値	使用値	
自立方式	根入長※1			※1 仮想地盤面+3/β又は2.5/β
	断面寸法※2			※2 III型以上
	応力度			※3 自立高の3%以内
	最大変位※3			※4 (つりあい深さ)×1.2以上
	根入長※4			※5 III型以上
	断面寸法※5			※6 自立高の3%以内
縮切工	応力度			
	最大変位※6			
	セン断変形破壊			
	滑動			
	基礎地盤の支持			
	根入長※7			※7 受動土圧トニ 安全性×主動土圧ト
	断面寸法※8			※8 III型以上
	応力度			
重縮切方式	間隔			
	材質			
	断面寸法			
	応力度			
	断面寸法			
	応力度			
引張材	腹起材			
	材			

特記事項

設計調書 (路面覆工・仮棧橋工) (/)

項 目	設 計 結 果		備 考
	計 算 値	使 用 値	
設計荷重 (対象車輛)			
幅 員			
支 間			
覆工板寸法			
断面寸法			
応 力 度			
た わ み※1			※1 0/400 (0は支間) 以下又は2.5cm以下
断面寸法			
応 力 度			
断面寸法			
応 力 度			
支 持 力			
中 間 寸 法			
応 力 度			
支 持 力			
特記事項			

山岳トンネル詳細設計照査要領

本照査要領は、換気用施設（換気用立坑・斜坑・換気所、集塵機室等）を必要としない山岳の道路トンネル詳細設計に適用する

平成7年11月

トンネル詳細設計照査要領

基本条件の照査項目一覧表 (照査 ①)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当対象	照査	
1	設計の主旨・目的	1) 目的・主旨を理解したか 2) 地域構想等の関連する上位計画を把握したか 3) 設計の主な内容、工程などについて具体的方針を把握したか	業務計画書			
2	貸与資料の問題点	貸与資料の不足点・追加事項があるか	追加資料			
3	現地踏査	1) 地形、地質、現地状況を把握したか 2) 隣接既設構造物を把握したか （鉄道、道路、河川、水路、送電線鉄塔等） 3) 気象条件は把握したか 4) 水源地の有無を確認したか 5) 坑口の太陽光の入射方向を把握したか 6) 環境状況を把握したか（公園、砂防指定、保安林、文化財、学校、病院、地下水の状況等） 7) 支障物件の状況を把握したか 8) 施工計画の条件を把握したか（工事用水、濁水処理、工事用電力、工事用建物敷地、進入路等）	現場写真他			
4	設計基本条件	1) 設計条件は適正か （道路規格、設計速度、設計交通量、巾員構成等） 2) 地山区分は適正か（岩種、弾性波速度値、地山強度比ボーリンクコアの状況等） 3) 断面の基本型は適切か（1心円～3心円） 4) 内空断面は妥当か（建築限界、換気施設、照明施設、非常用施設、内装、施工誤差余裕等） 5) 掘削方式は妥当か 6) 掘削工法は妥当か 7) 坑内運搬方式は妥当か 8) 標準パターンの適用は妥当か、また特殊パターンは必要か 9) 換気方式及び規模は適正か 10) 坑門工の形式、位置は適正か 11) 坑門工の荷重条件は適正か	基本条件 検討書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当対象	照査	
		12) 照明施設、受電設備など電気設備設計は適正か 13) 非常用設備の計画は適正か（通報、警報設備、消火設備、避難誘導設備等） 14) 水源は確保されているか 15) 施工条件の基本は確認したか （工程、施工ヤード、ズリ運搬及び処理方式、受電点、給排水等） 16) トンネル特殊条件の対策は適正か （地すべり、地下水、湧水、偏圧、未固結層、膨張性地山等） 17) 使用すべき設計基準は把握したか 18) 関連する設計との整合はとれているか 19) 坑口の太陽光（西日等）の対策は必要か	基本条件 検討書			
5	幾何構造、線形条件	1) 幅員構成、幅員変化、平面線形は適正か 2) 縦断線形は適正か 3) 座標系と基準点は適正か	基本条件 検討書			
6	交差条件	1) 隣接既設構造物等との離隔及び対応方法を検討したか 2) 交差協議に関わる協議資料作成の種類と内容を確認したか	基本条件 検討書			
7	坑口部地盤条件	1) 坑口周辺の地形・地質の状況を把握したか 2) 土質定数の設定は妥当か 3) 支持力、地盤バネ値の設定は妥当か 4) 特殊条件（地すべり、偏圧、支持力不足等）の設定は妥当か 5) 水位の評価は妥当か	基本条件 検討書			
8	地形条件	1) 用地幅を確認したか 2) 施工ヤードを確認したか				
9	使用材料	使用材料と規格、許容応力度は妥当か				

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当対象	照査	
10	環境及び景観検討	1) 景観検討の必要性、デザインコンセプト、範囲などが理解されたか 2) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料などが明らかになっているか (CG、フォトモンタージュ、透視図等)	基本条件 検討書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－１）

（追加項目記入表）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
				該 当 対 象	照 査	

成果品の照査項目一覧表 (照査 ③)

件 名 : _____

発注者名 : _____

受託者名 : _____

照査の日付 : _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか 2) 許容応力度の取り方は正しいか 3) 安定計算結果は許容値を満たすか 4) 施工を配慮した計算となっているか	設計計算書			
2	設計図	1) 縮尺は共通仕様書と整合しているか 2) 打合せ事項は反映されているか 3) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか 4) 各設計図が互いに整合されているか 5) 構造図の基本寸法、高さ関係は照合されているか 6) 主筋の配置、鉄筋径、ピッチ、使用材料は計算書と一致しているか 7) 構造詳細は適用基準及び打合せ事項と整合するか 8) 取り合い部の構造寸法は適正か 9) 分かり易い注記が付いているか	設計図			
3	数量計算書	1) 数量計算は適用基準及び打合せ事項と整合しているか (有効数字、位取り、単位、区分……) 2) 数量計算に用いた寸法は図面と一致するか 3) 数量とりまとめは、種類毎に、材料毎に、打合せ区分に合わせてまとめられているか	数量計算書			
4	施工設備計画	1) 施工法が妥当であるか (掘削方式、掘削工法、坑内運搬方式等) 2) 工事用設備計画は妥当か (工事中の換気、給気、給水、排水、濁水処理、工事用電力等) 3) 安全確保が配慮されているか 4) 関係法令を遵守した計画になっているか	施工設備 計画書			
5	設計調書	1) 調書の記入は適正にされているか 2) マクロ的に見て問題ないか (幾何構造、主要寸法、主要数量)	設計調書			

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	
6	報告書	1) 条件設定の考え方が整合しているか 2) 比較・検討の結果が整合されているか 3) 設計思想の設定と考え方が妥当であるか	設計報告書			
7	TECRIS	TECRISの登録はしてあるか	登録証明書			

成果品の照査項目一覧表（様式－３）

（追加項目一覧表）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該 当 対 象	照 査	

細部条件の照査項目一覧表
(照査 ②)

件名：_____

発注者名：_____

受託者名：_____

照査の日付： 平成 年 月 日

	総括監督員	主任監督員	担当監督員
発注者印			

	照査技術者	主任技術者
受注者印		

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
1	本体工	1) 内空断面の設定は妥当か 2) 標準支保パターンの適用は妥当か（吹付コンクリート厚、ロックボルト長・本数、鋼アーチ支保工寸法、覆工厚） 3) 特殊断面（小断面、大断面、特殊地山における断面等）の支保パターンの適用は妥当か 4) 補助工法は妥当か 5) 坑口部の設定範囲（延長）、支保パターン、補助対策工等が妥当か 6) 非常駐車帯部等の断面変化に対する設計は妥当か 7) 掘削方式、掘削工法、坑内運搬方式は妥当か 8) ブリ捨て場の設定は妥当か	一般図及び設計条件検討書			
2	坑門工及び明り巻き	1) 坑門周辺の法面処理は妥当か 2) 一般部との整合性は妥当か 3) 形状寸法は妥当か 4) 構造モデルは妥当か 5) 計算手法は妥当か 6) 材料の品質区分は妥当か ・コンクリート ・鉄筋等 7) 構造細目は妥当か ・鉄筋の被り ・鉄筋のピッチ等 8) 本体工との連結は妥当か	一般図及び設計条件検討書			
3	排水工	1) 防水工が妥当か 2) 裏面排水工が妥当か 3) 横断排水工が妥当か 4) 中央排水工が妥当か 5) 各排水処理の接続は妥当か 6) 集水柵間隔が妥当か 7) プレキャスト化、二次製品の使用などを配慮しているか 8) 排水流末処理は妥当か	一般図及び設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
4	舗装工	9) トンネル洗浄水の処理対策は妥当か 1) 舗装厚が妥当か 2) 目地間隔が妥当か 3) 材料の品質区分は妥当か	一般図及び設計条件検討書			
5	非常用施設	1) 非常用施設配置は妥当か 2) 箱抜の位置、サイズ、補強は妥当か 3) トラフ寸法は、給水管、ケーブルの点検収納が可能な寸法、構造となっているか 4) 配管の凍結対策を検討しているか 5) 各機器の漏水対策は妥当か 6) 電気設備設置計画との調整がとれているか	一般図及び設計条件検討書			
6	仮設備計画	1) 施工ヤードの位置及び配置計画は妥当か 2) 工区割は妥当か 3) 坑外仮設備配置は妥当か 4) 送風、排気設備の配置は妥当か 5) 工事用電力の確保及び受電位置は妥当か 6) 給水源は妥当か 7) 環境対策（汚泥水処理設備、騒音対策等）は考慮されているか 8) 仮設構造物（仮設橋、仮設ステージ等）の計算手法は妥当か	一般図及び設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

（追加項目記入表）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				該 当 対 象	照 査	

平成8年度 技術管理委員会 調査設計部会 調査設計分科会 名簿

座長	春日井 哲夫				
	街築班	橋梁班	公園班	河川班	特記仕様書班
幹事	丸山 嘉幸	朝倉 茂味	岩本 正雄	坂元 俊久	横井 純夫
委員	野村 栄祐 松島 進 大桃 啓嗣 田宮 行朗 佐野 公俊	秋和 直樹 石井 保夫 岩井 秀隆 戸田 雅浩 中田 浩嗣 宮崎 一郎	堀 康宏 高野 雅昭 野川 義秋 松本 晃一	坂井 誠治 猪本 勝 青木 正文 川部 昇 山崎 與和	田中 進一 白土 博資 橋本 英樹 島津 哲也 梁谷 幸夫 張替 達也 金高 和則
事務局	中里 隆 砂田 覚 相神弘行				

平成9年度 技術管理委員会 調査設計部会 調査設計分科会 名簿

座長	手塚 博治				
	街築班	橋梁班	公園班	河川班	特記仕様書班
幹事	丸山 嘉幸	清水 孝次	岩本 正雄	坂元 俊久	横井 純夫
委員	遠藤 雄治 野村 栄祐 小川 嘉宏 佐野 公俊 大桃 啓嗣	岩井 秀隆 忍田 裕作 吉野 康晴 戸田 雅浩 大澤 廣和 宮崎 一郎	堀 康宏 高野 雅昭 野川 義秋 松本 晃一	坂井 誠治 橋本 英樹 青木 正文 和泉 敏彦	田中 進一 樋口 秀典 木内 美幸 上方 一行 澤崎 勝彦
事務局	竹田 敏憲 佐藤 清和 石和田浩史				